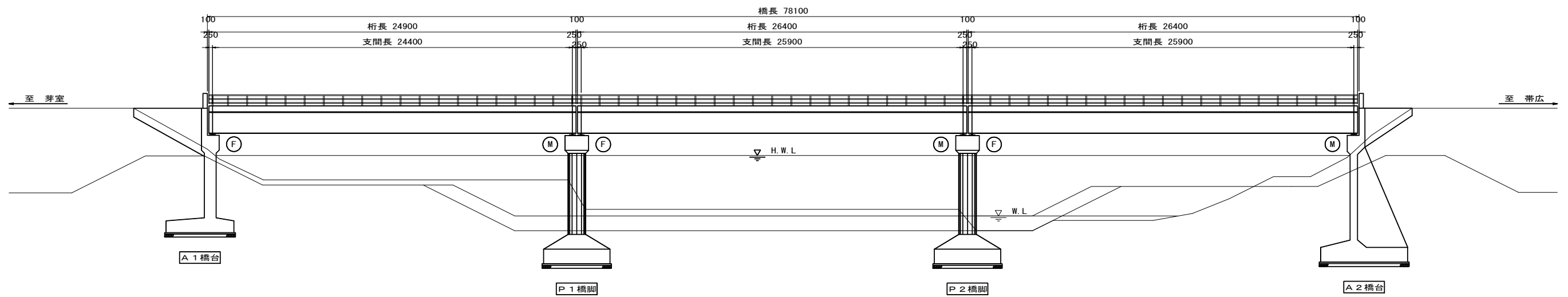
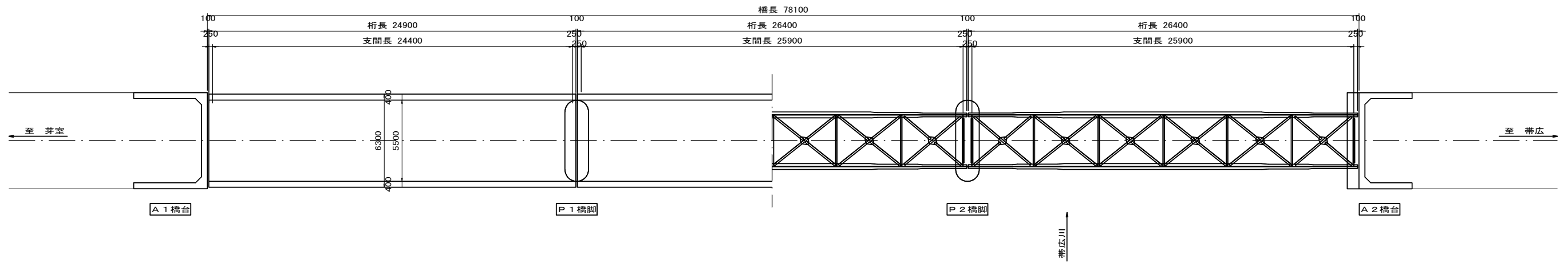


# 北伏古南7線橋 現況一般図

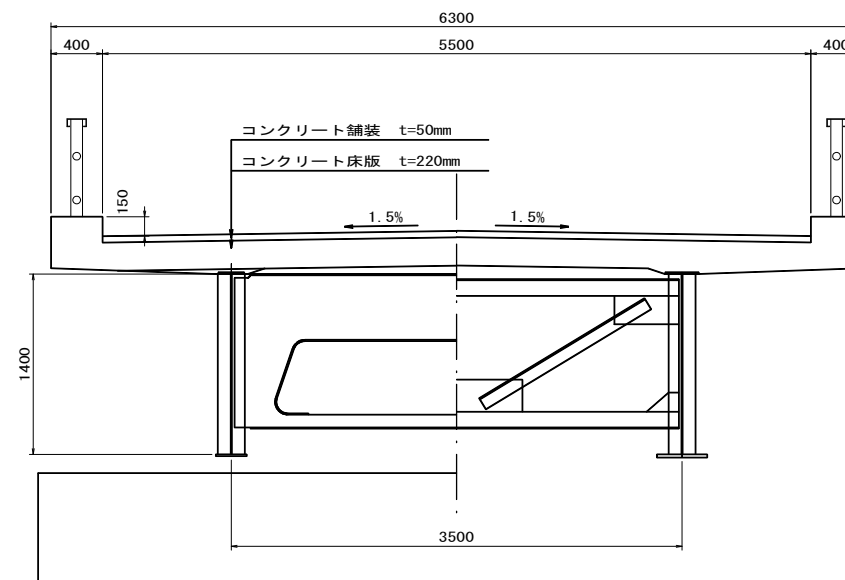
側面図 S=1:150



平面図 S=1:150



断面図 S=1:30



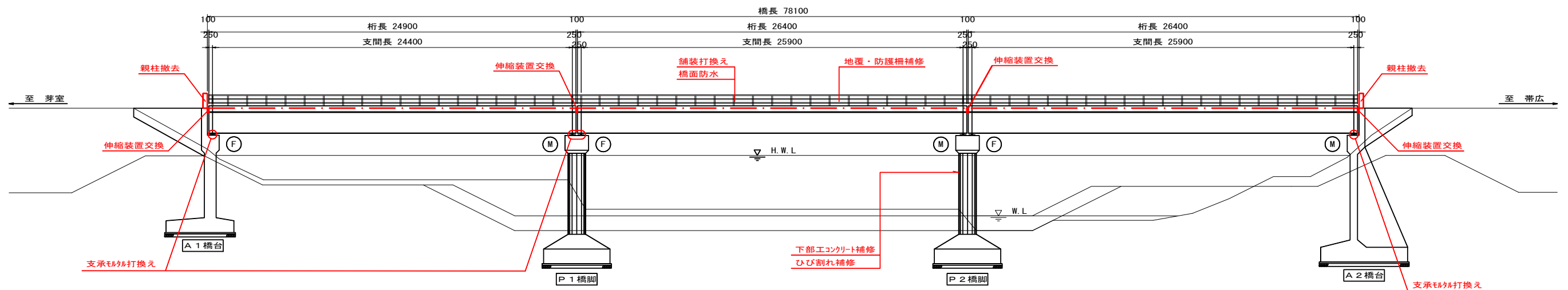
特記事項

1. 本図は既設資料及び現地計測により復元したものであるため、工事着工前に必ず現地確認を実施する事。
2. 既設の構造が本図と異なる場合、監督員と協議を行い指示を受ける事。

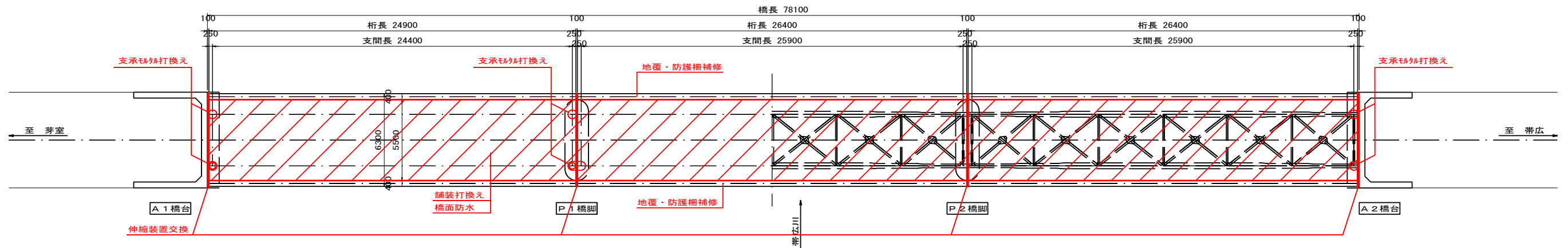
年度	令和 8 年 度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 現況一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 19
作成年月日	令和 8 年 4 月		
北海道 芽 室 町			

# 北伏古南7線橋 補修一般図

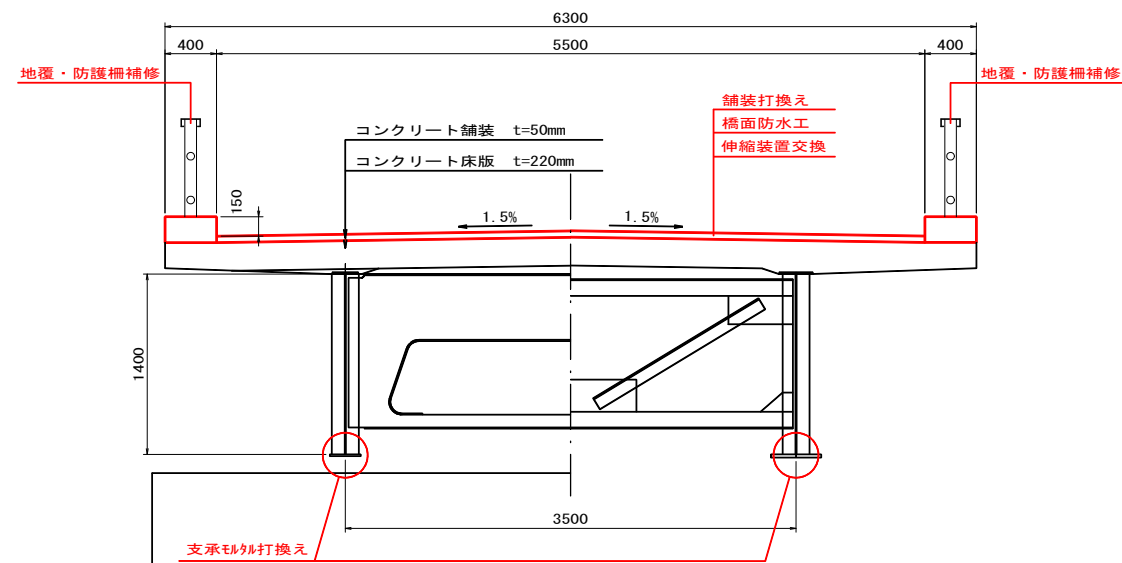
側面図 S=1:150



平面図 S=1:150



断面図 S=1:30



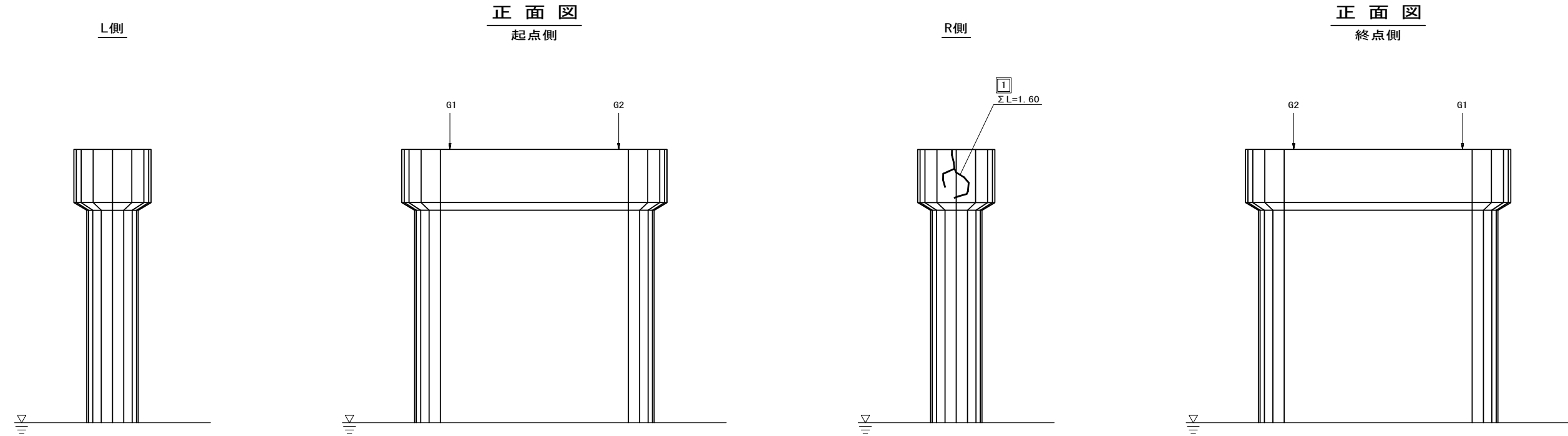
特記事項

1. 本図は既設資料及び現地計測により復元したものであるため、工事着工前に必ず現地確認を実施する事。
2. 既設の構造が本図と異なる場合、監督員と協議を行い指示を受ける事。

年度	令和 8 年 度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 補修一般図		
縮尺	図示	図面番号	2 / 19
作成年月日	令和 8 年 4 月		
	芽室町役場		

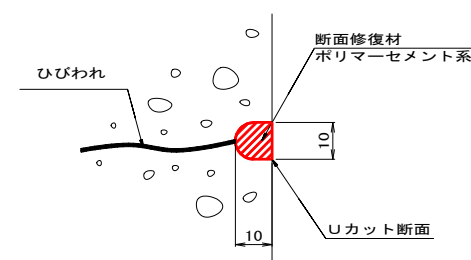
# 北伏古南7線橋 橋脚補修図

(P2橋脚)

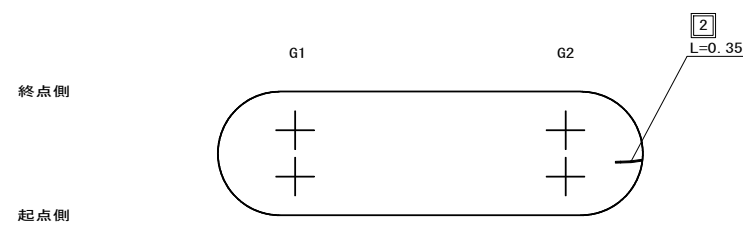


## ひびわれ充填工法詳細 (参考)

遊離石灰をともなうひび割れ  
幅1.0mmを超えるひび割れ



## 沓座面



## 補修工法の凡例

記号	補修工法
	ひび割れ充填工法 (遊離石灰をともなうひび割れ補修) (幅1.0mmを超えるひび割れ)

### 特記事項

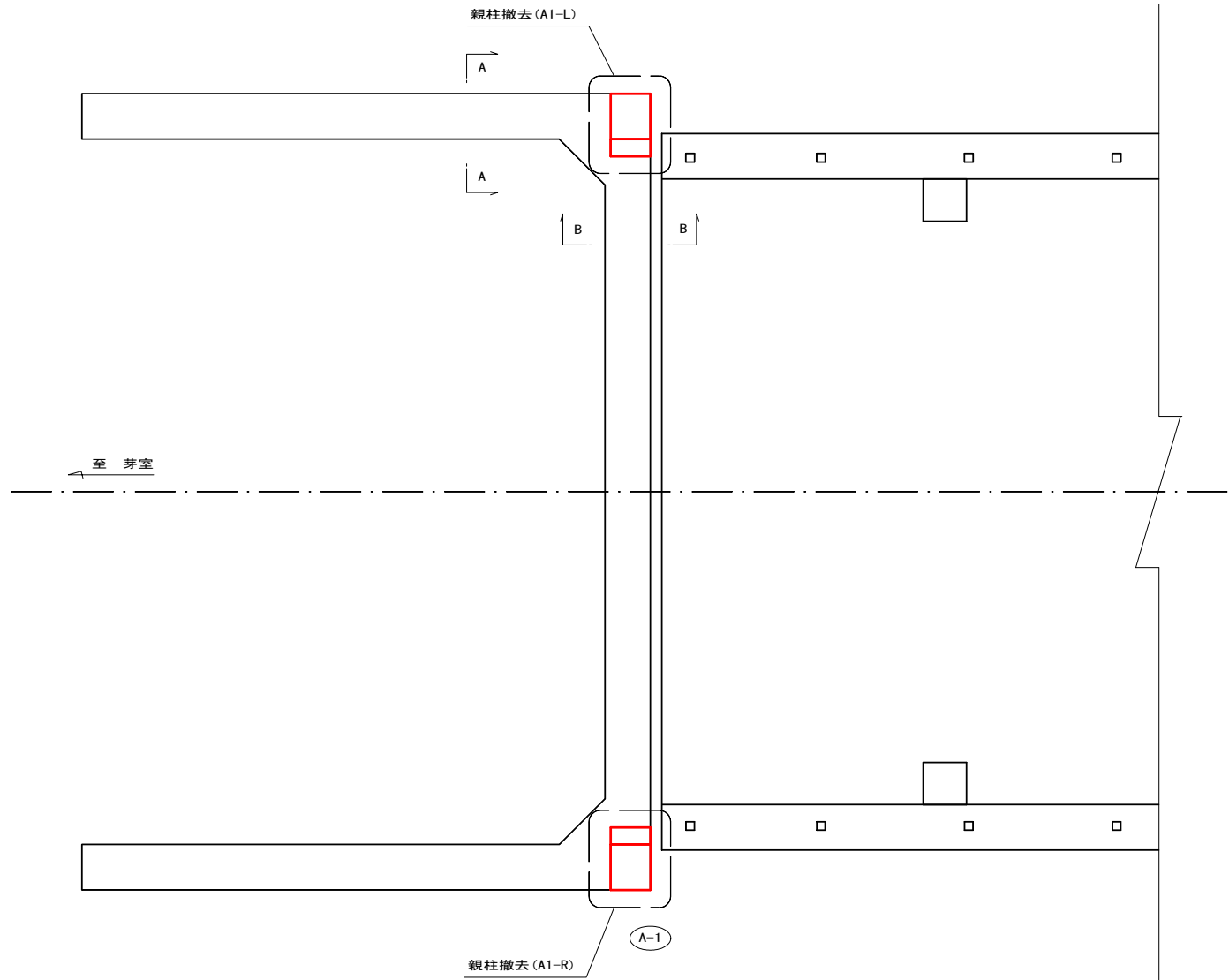
- ・詳細寸法および対策範囲等は、現地確認後決定とする。
- 1. ひびわれ補修について
  - ・ひびわれ補修工は、表面ひびわれ幅が0.2~1.0mmのものは低圧注入工法、遊離石灰をともなうひび割れと幅1.0mmを超えるひび割れは充填工法とする。
  - ⇒材料：ポリマーセメント系とする。
  - ・補修対象部に漏水が存在し止水が困難な場合は、水抜きパイプを設置する等の措置を考慮すること。

年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 橋脚補修図		
縮尺	S=1:50	図面番号	3/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			

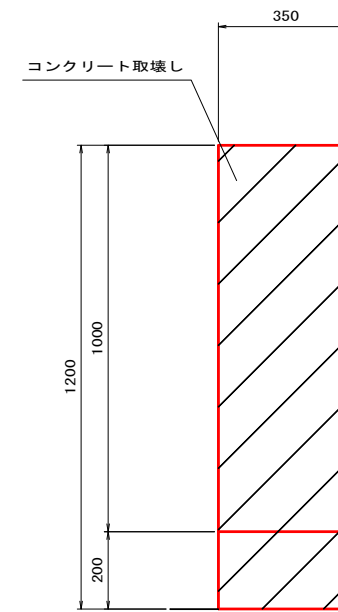
# 北伏古南7線橋 橋面補修図

(親柱撤去～A1橋台)

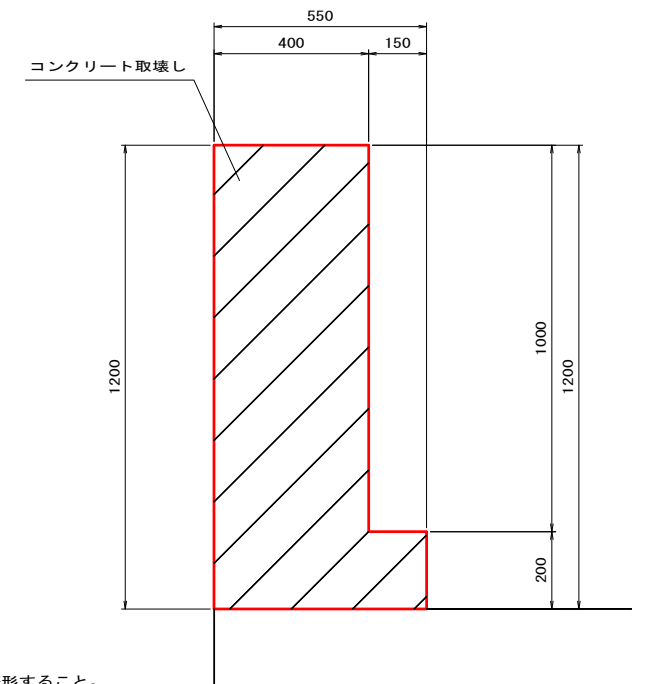
平面図 S=1:30  
(地覆取壊し)



親柱前面 (B-B) S=1:10



親柱正面 (A-A) S=1:10



※1 A1-RはA1-Lの鏡像とする。  
 ※2 必要に応じて取壊した跡のコンクリート面はモルタル等で整形すること。

- 特記事項
- ・ 詳細の寸法値は施工時に再度確認すること。
  - ・ 施工前には他コンクリート部材の損傷状況を確認すること。
  - ・ 新たな損傷が確認された場合は補修の要否について監督員と協議すること。
  - ・ 鉄筋はすべて撤去すること。
  - ・ 残置鉄筋の表面が露出する場合はモルタル等にて埋め、覆うこと。

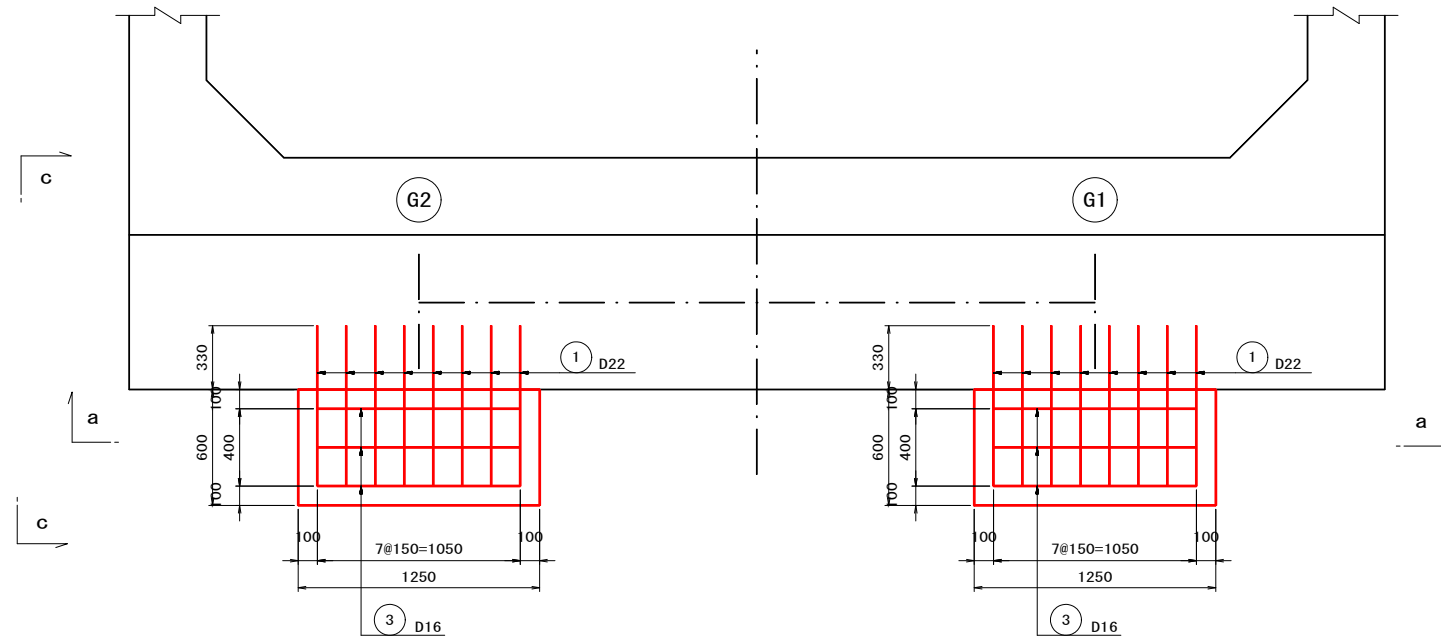
年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 橋面補修図		
縮尺	図示	図面番号	4/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			



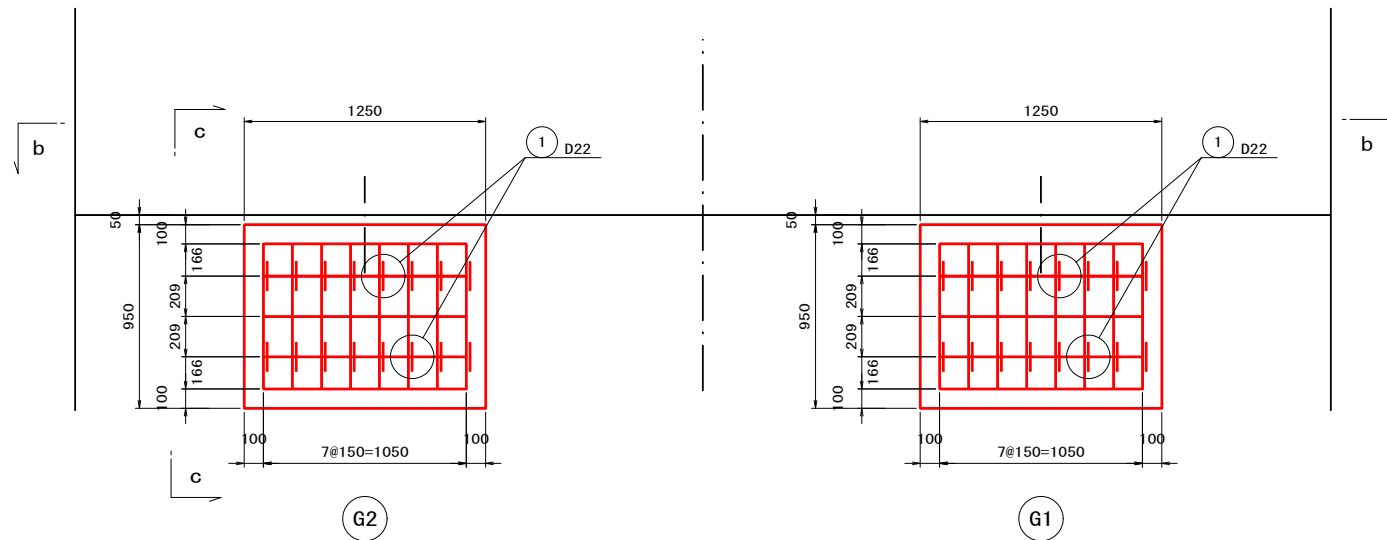
# 北伏古南7線橋 仮受け工詳細図(1)

(RCブラケット A1橋台)

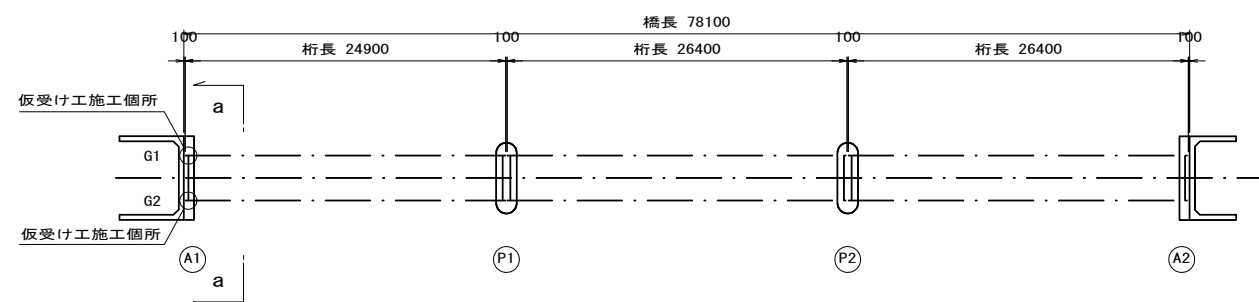
A1橋台沓座平面図 S=1:20  
〈断面図 b-b〉



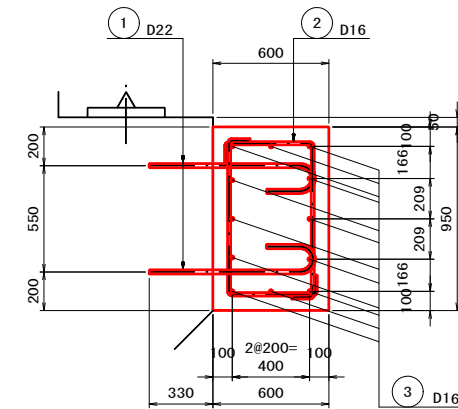
A1橋台沓座正面図 S=1:20  
〈断面図 a-a〉



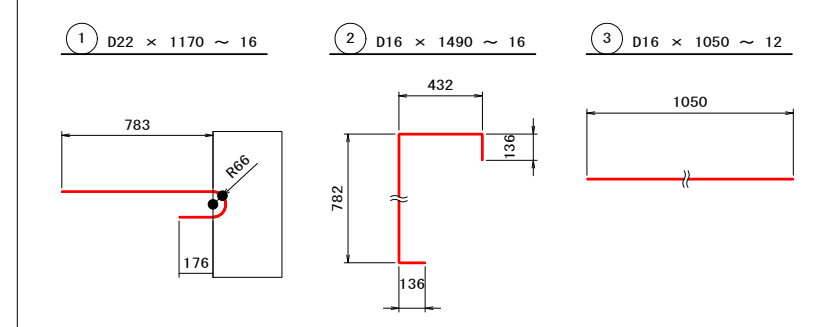
位置図 S=1:300



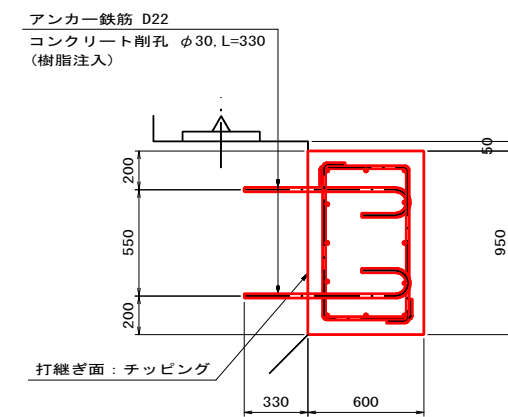
沓座拡幅部配筋詳細図 S=1:20  
〈断面図 c-c〉



沓座拡幅構造(A1橋台)～鉄筋加工図(1箇所あたり数量)



沓座拡幅構造断面図 S=1:20  
〈断面図 c-c〉



※注記

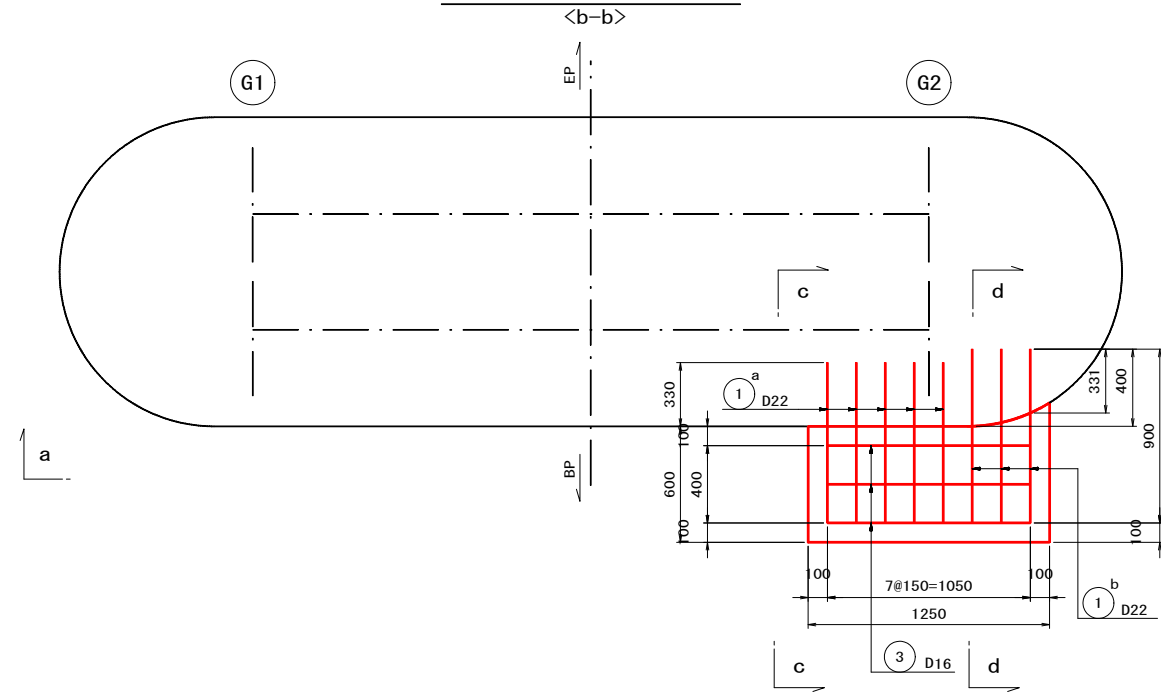
- 1) 詳細寸法は現地計測にて確認すること。
- 2) 施工時に損傷が確認された際には監督員と協議し補修対策の要否を検討すること。
- 3) アンカー筋・差筋アンカー施工の際には鉄筋探索を行い既設鉄筋との干渉を避けること。
- 4) コンクリート打設時は、既設コンクリート面にチッピング処理を施すこと。

年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 仮受け工詳細図(1)		
縮尺	図示	図面番号	6/19
作成年月日	令和8年4月		
	北海道芽室町		

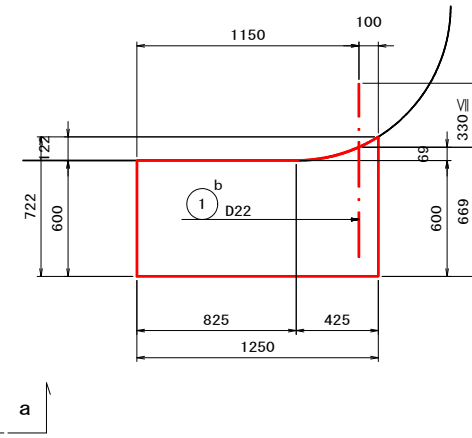
# 北伏古南7線橋 仮受け工詳細図(2)

(RCブラケット P1橋脚)

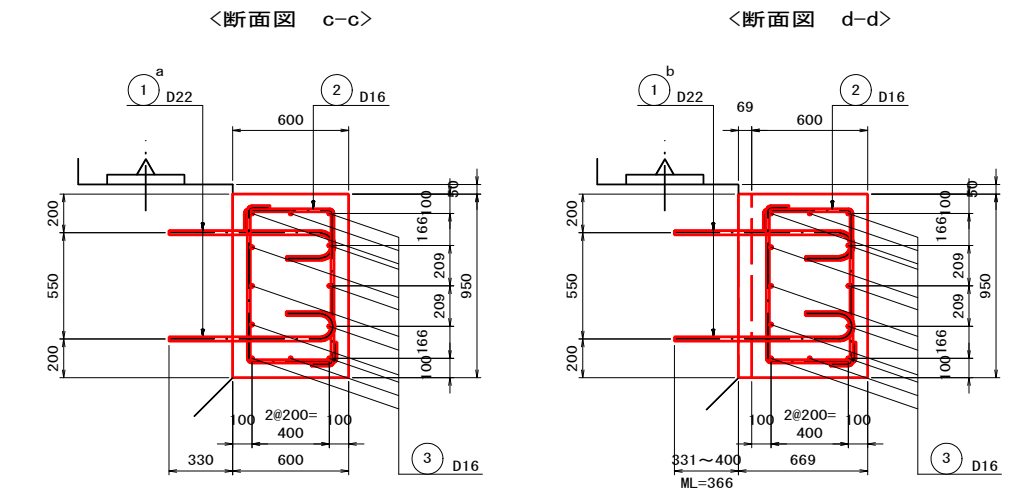
P1橋脚沓座平面図 S=1:20



沓座拡幅部平面詳細図 S=1:20

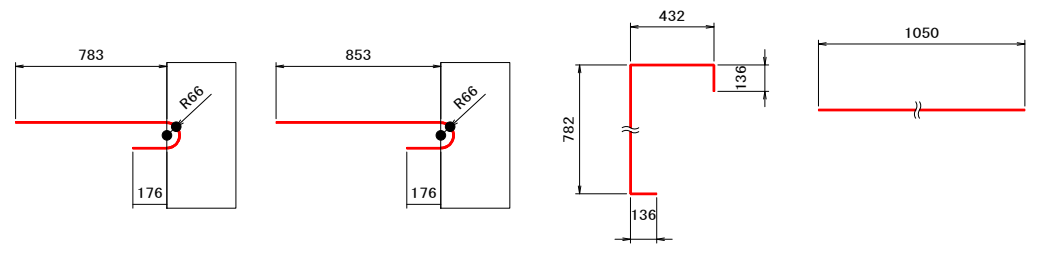


沓座拡幅部配筋詳細図 S=1:20

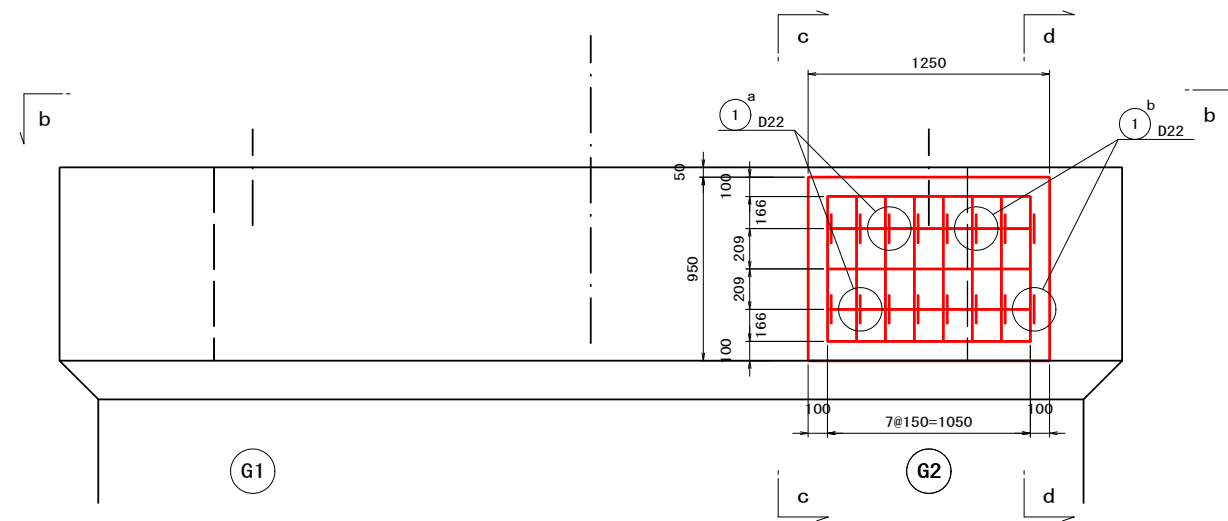


沓座拡幅構造(P1橋脚)～鉄筋加工図(1箇所あたり数量)

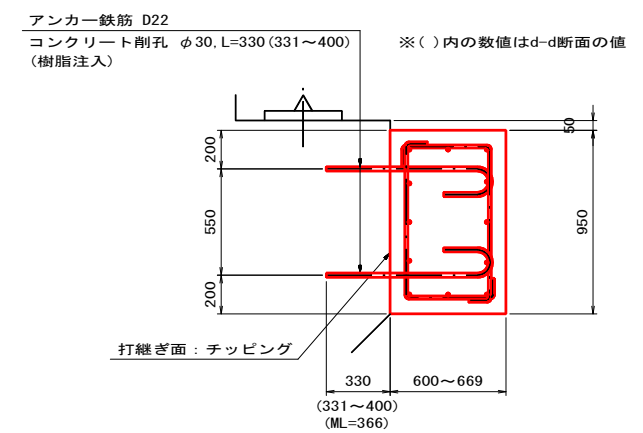
- ① D22 × 1170 ~ 10
- ① D22 × 1240 ~ 6
- ② D16 × 1490 ~ 16
- ③ D16 × 1050 ~ 12



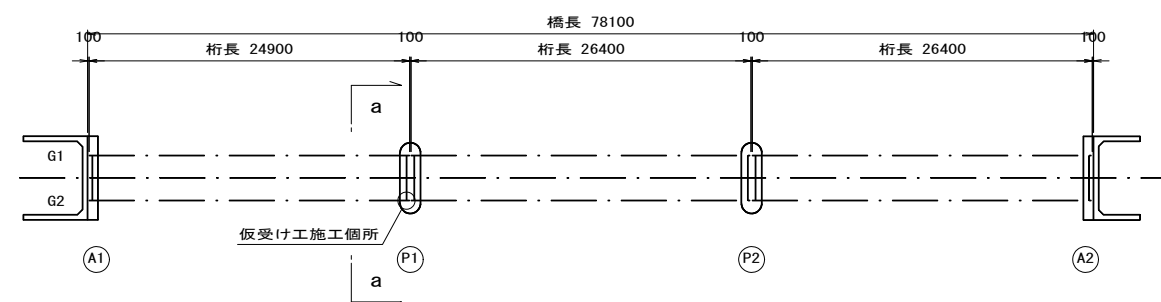
P1橋脚沓座正面図 S=1:20



沓座拡幅構造断面図 S=1:20



位置図 S=1:300



※注記

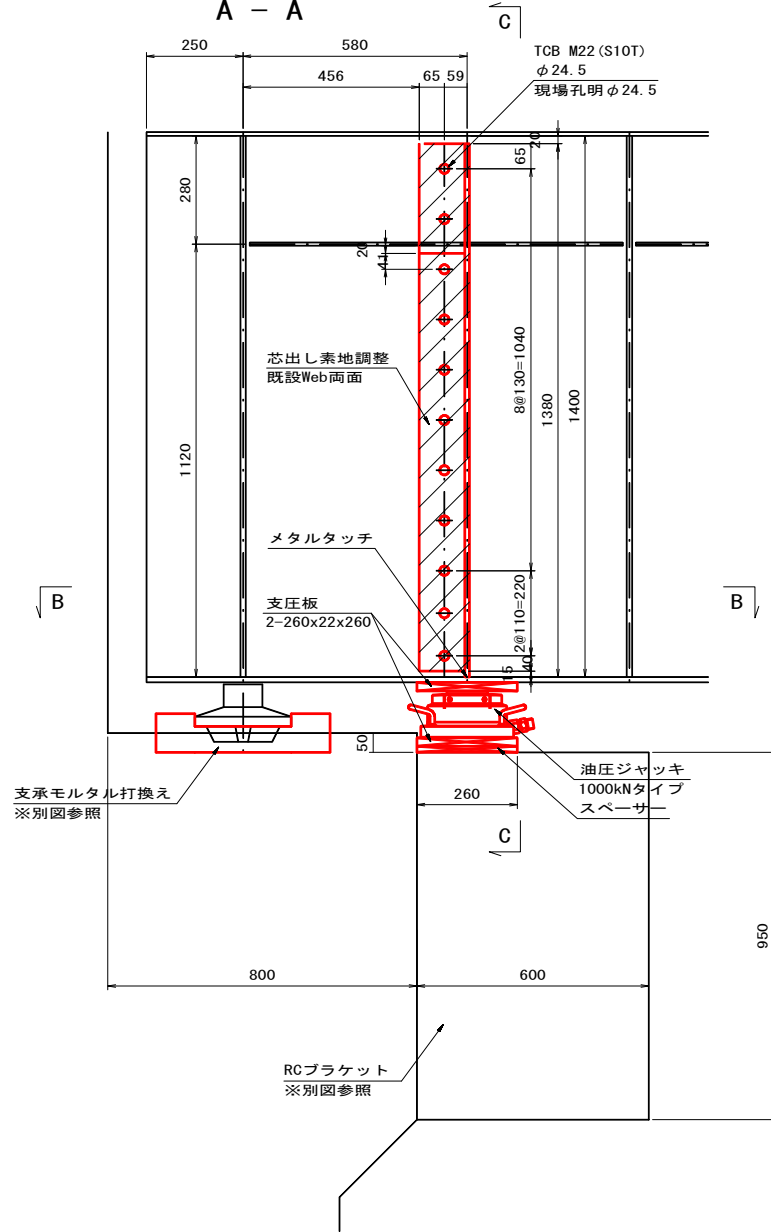
- 1) 詳細寸法は現地計測にて確認すること。
- 2) 施工時に損傷が確認された際には監督員と協議し補修対策の要否を検討すること。
- 3) アンカー筋・差筋アンカー施工の際には鉄筋探索を行い既設鉄筋との干渉を避けること。
- 4) コンクリート打設時は、既設コンクリート面にチッピング処理を施すこと。

年度	令和 8 年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 仮受け工詳細図(2)		
縮尺	図示	図面番号	7 / 19
作成年月日	令和 8 年 4 月		
	北海道芽室町		

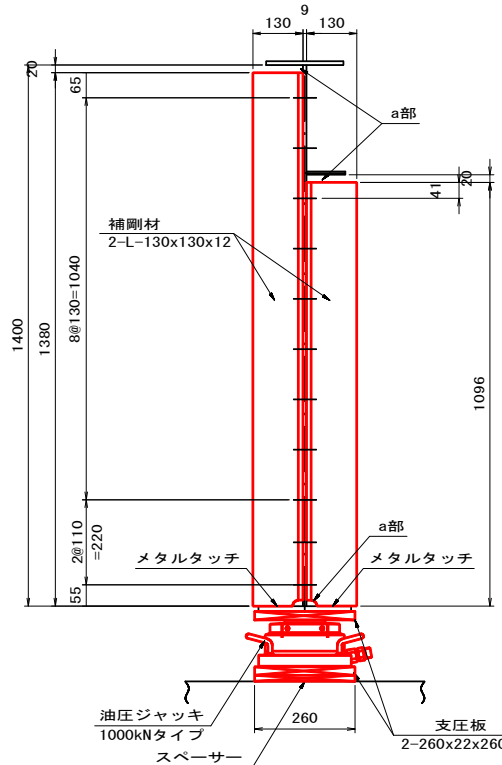
# 北伏古南7線橋 仮受け工詳細図(3)

(主桁補強 ジャッキアップ) ※P1はA1の鏡像

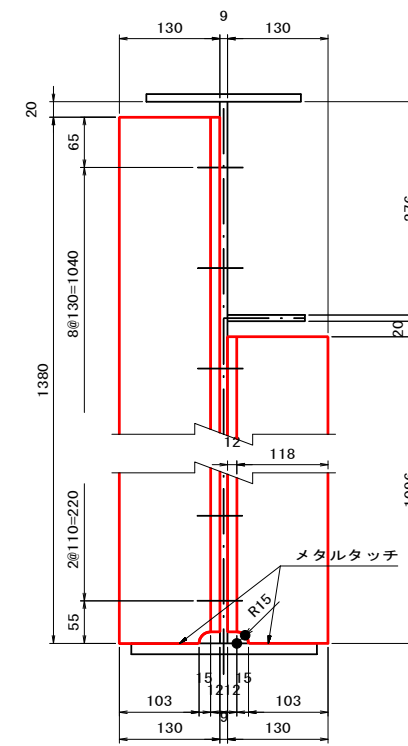
側面図  
A - A S=1:10



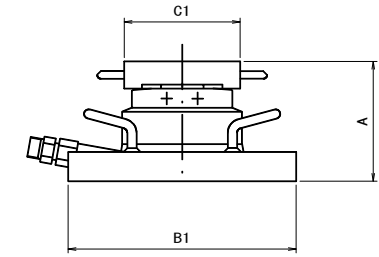
C - C S=1:10



a詳細図 S=1:5

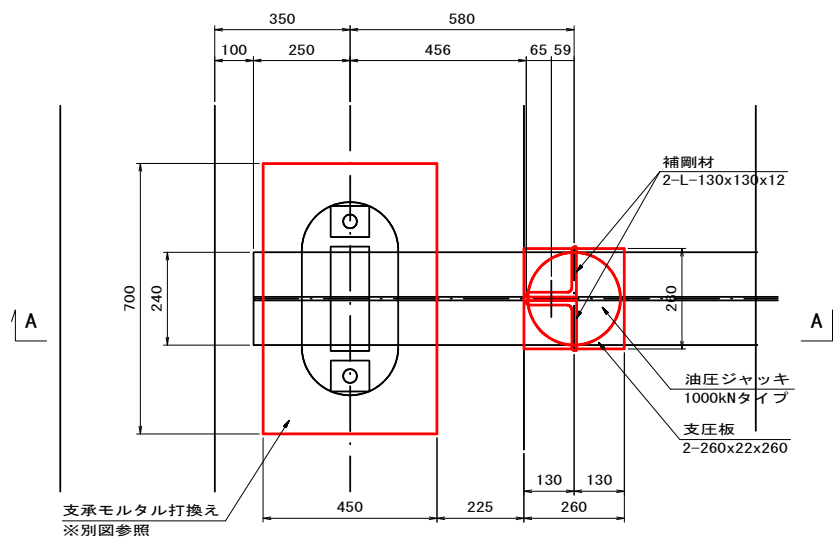


小型ジャッキ (参考図)

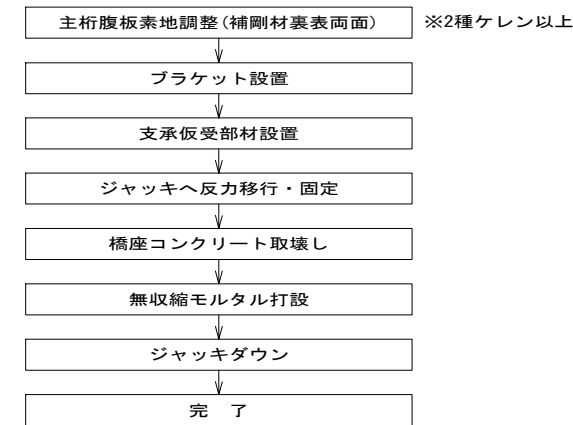


	単位	P1
能力	kN	1000
機高 A	mm	117
外径 B1	mm	240
頭径 C1	mm	105

平面図  
B - B S=1:10



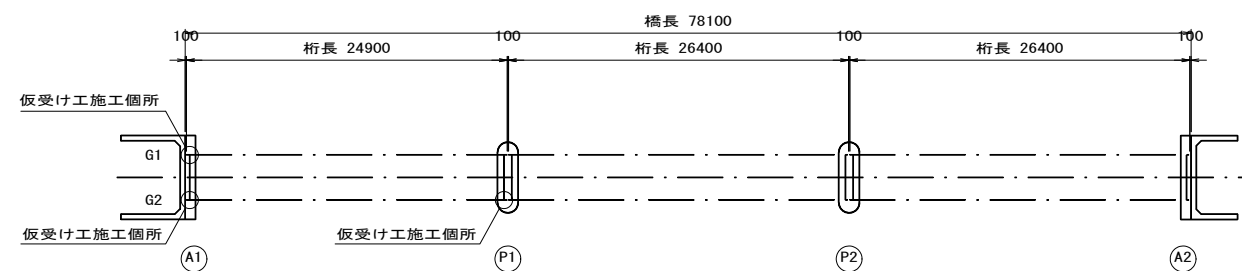
支承再設置施工手順フローチャート



補剛材

- 1 - L. 130 x 130 x 12 x 1380
- 1 - L. 130 x 130 x 12 x 1096
- 9 - T.C.Bit. M22 x 70L (S10T)
- 2 - T.C.Bit. M22 x 60L (S10T)
- 2 - P1. 260 x 22 x 260 (支圧板)

位置図 S=1:300



※注記

- 1) 詳細寸法は現地計測にて確認すること。
- 2) 施工時にあたらぬ損傷が確認された際には監督員と協議し補修対策の要否を検討すること。
- 3) 補剛材の取付はトルシア形高力ボルトとする。
- 4) 補剛材の取付部の下地処理は2種ケレン、塗装の仕様はF-11とする。

工事名	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 仮受け工詳細図(3)		
縮尺	図示	図面番号	8/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			

# 北伏古南7線橋 支承モルタル補修図(1)

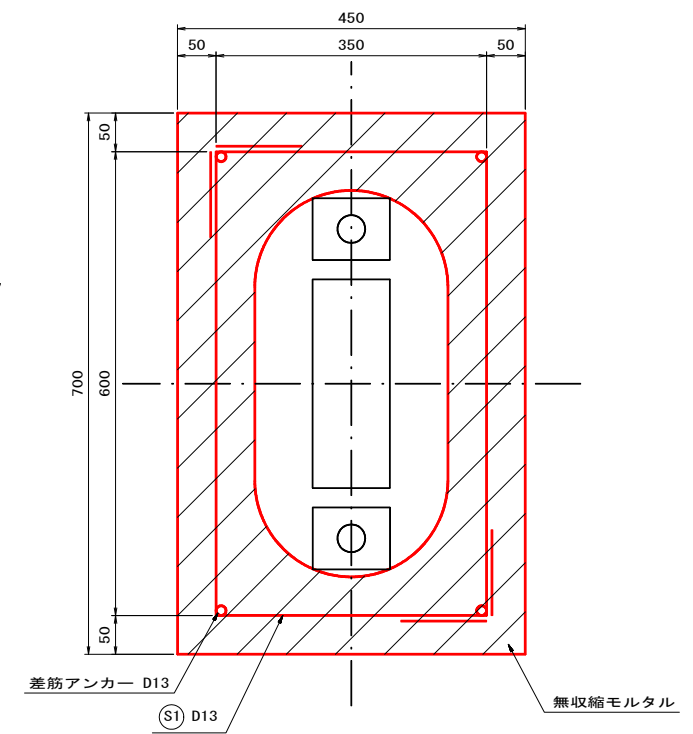
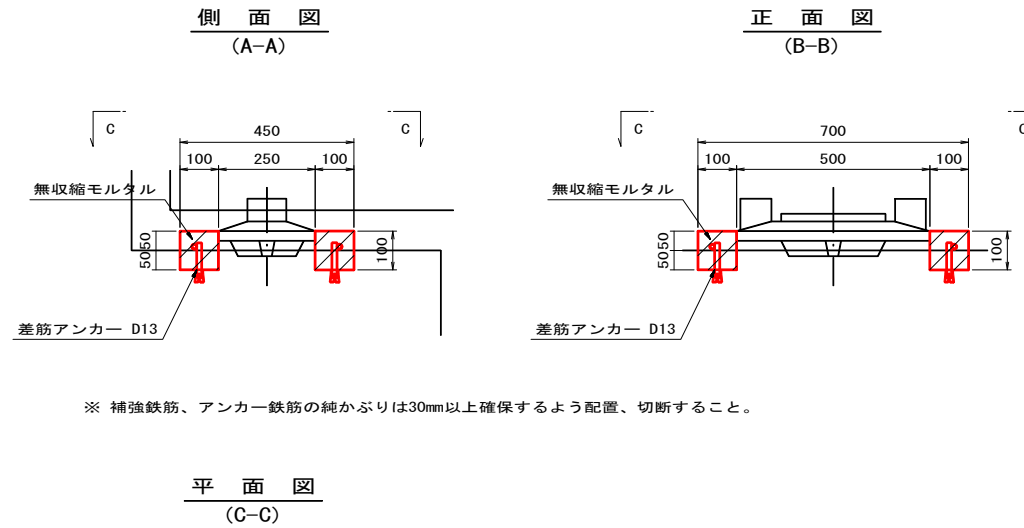
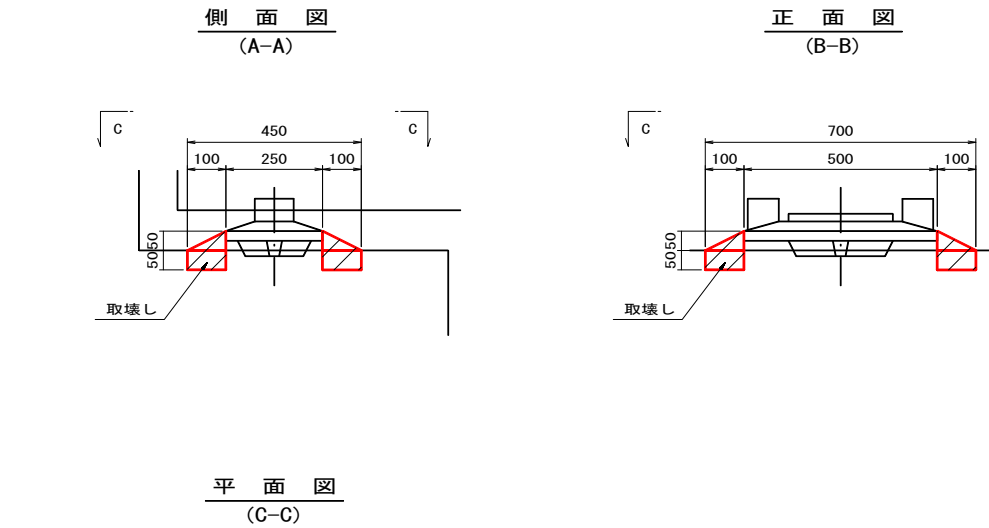
(TYPE-1 沓座モルタル打替工)

支承モルタル 取壊し・補修図 S=1:10

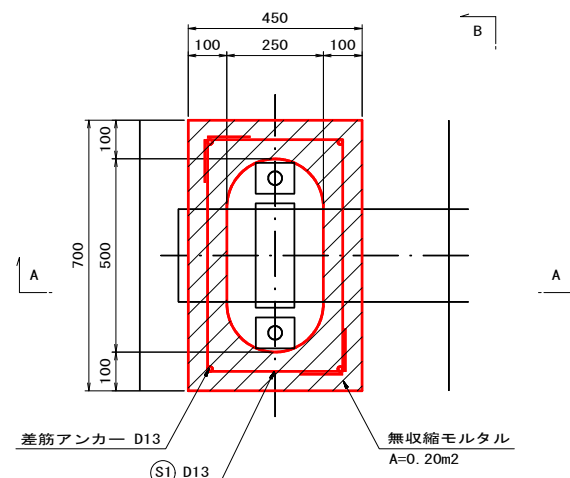
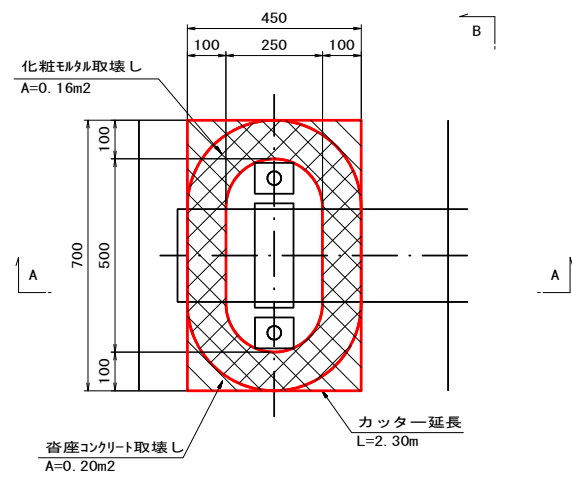
取壊し図

補修図

鉄筋配置詳細図 S=1:5

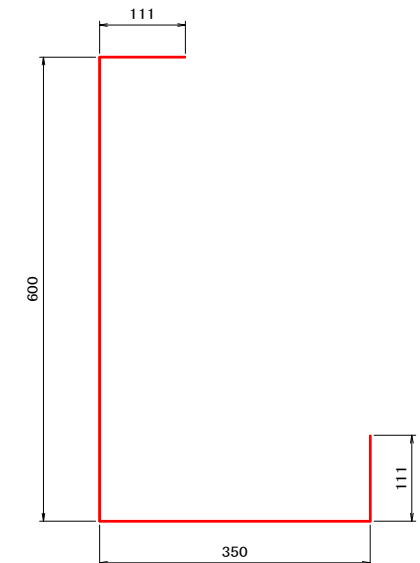


※ 補強鉄筋、アンカー鉄筋の純かぶりは30mm以上確保するよう配置、切断すること。



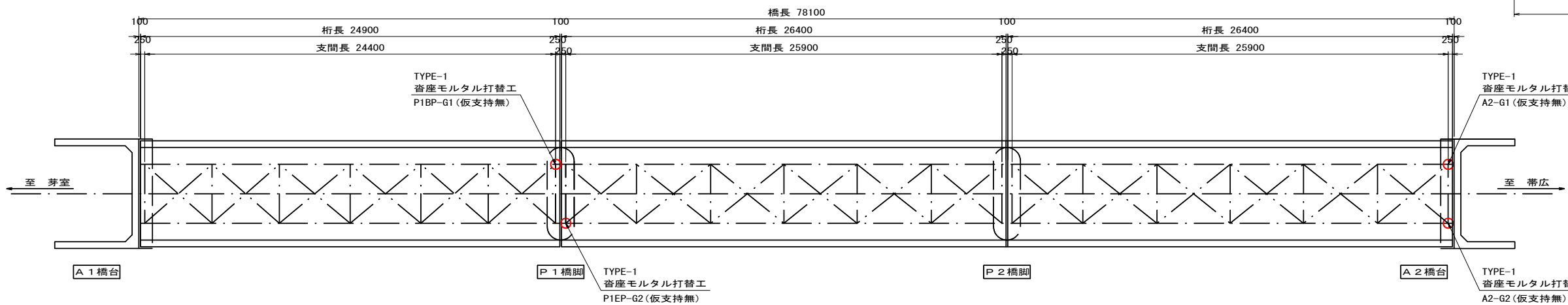
鉄筋加工図

1ヶ所当たり  
※鉄筋中心寸法を示す。



Ⓢ1 D13×1170 ~ 2本  
※SD345

配置図 S=1:150



特記事項  
 ・詳細の寸法値は施工時に再度確認すること。  
 ・施工前には再度支承モルタルの損傷状況を確認すること。  
 ・支承モルタル・沓座コンクリートの脆弱部は全て撤去・補修のこと。

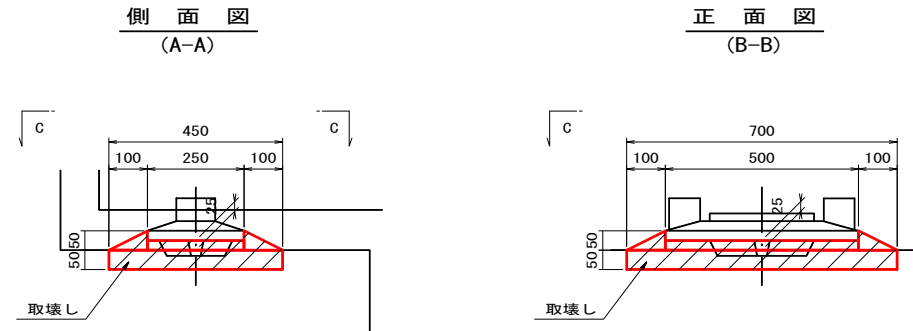
年度	令和8年度
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事
図面名	北伏古南7線橋 支承モルタル補修図(1)
縮尺	図示 図面番号 9/19
作成年月日	令和8年4月
北海道芽室町	

# 北伏古南7線橋 支承モルタル補修図(2)

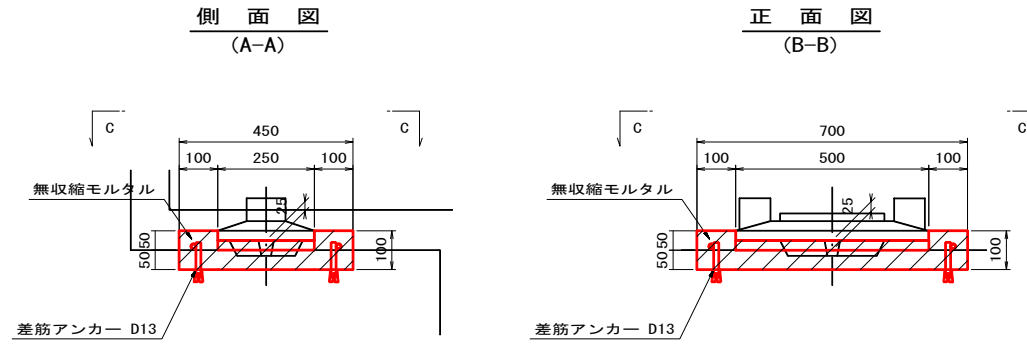
(TYPE-2 沓座モルタル打替工)

## 支承モルタル 取壊し・補修図 S=1:10

### 取壊し図

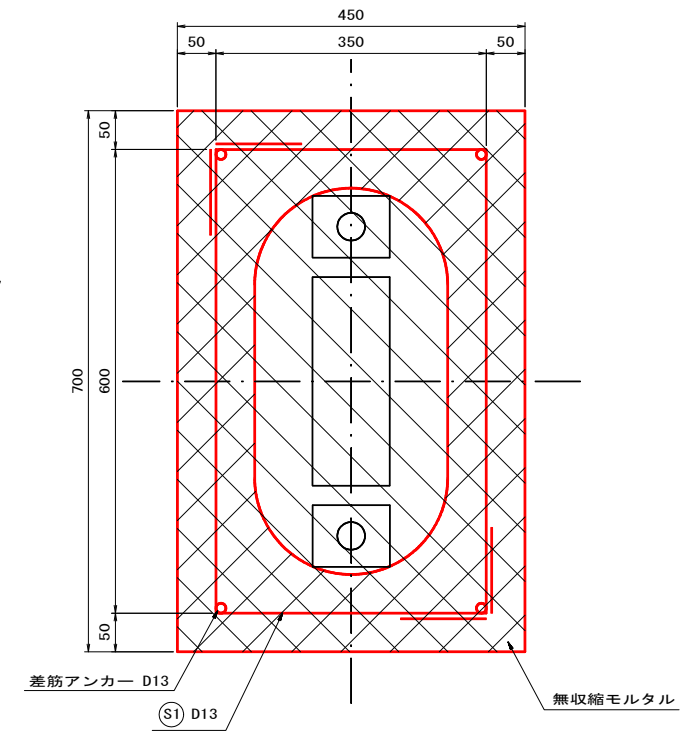


### 補修図



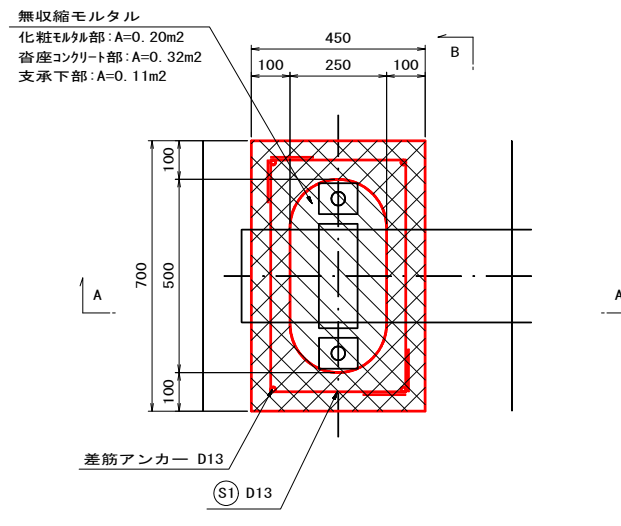
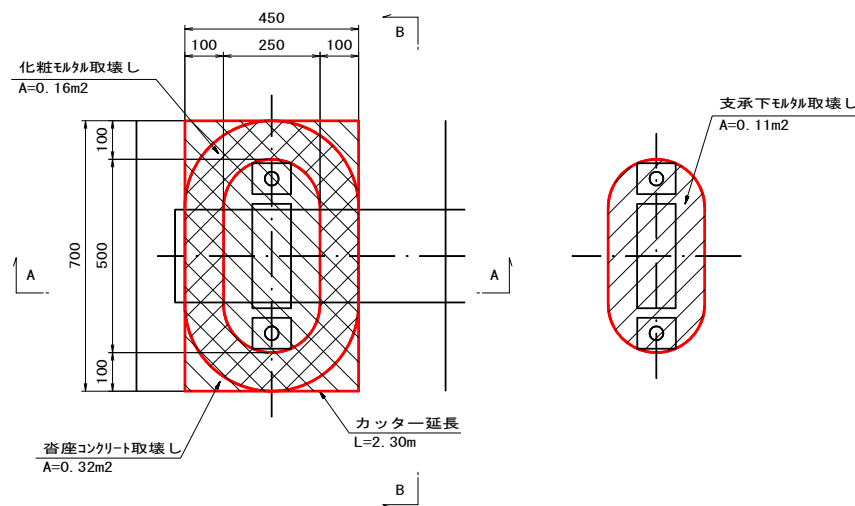
※ 補強鉄筋、アンカー鉄筋の締め込みは30mm以上確保するよう配置、切断すること。

## 鉄筋配置詳細図 S=1:5



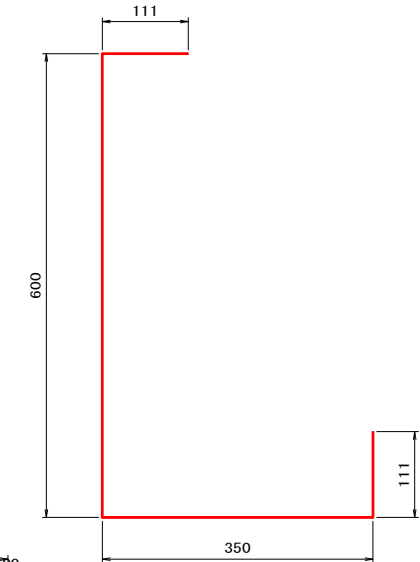
### 平面図 (C-C)

### 平面図 (C-C)



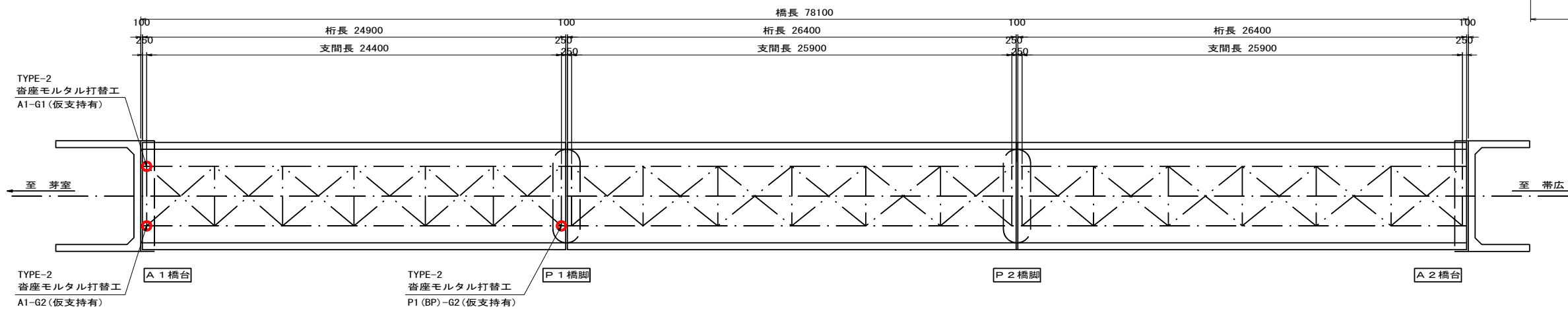
### 鉄筋加工図

1ヶ所当たり  
※鉄筋中心寸法を示す。



Ⓢ1 D13×1170 ~ 2本  
※SD345

## 配置図 S=1:150



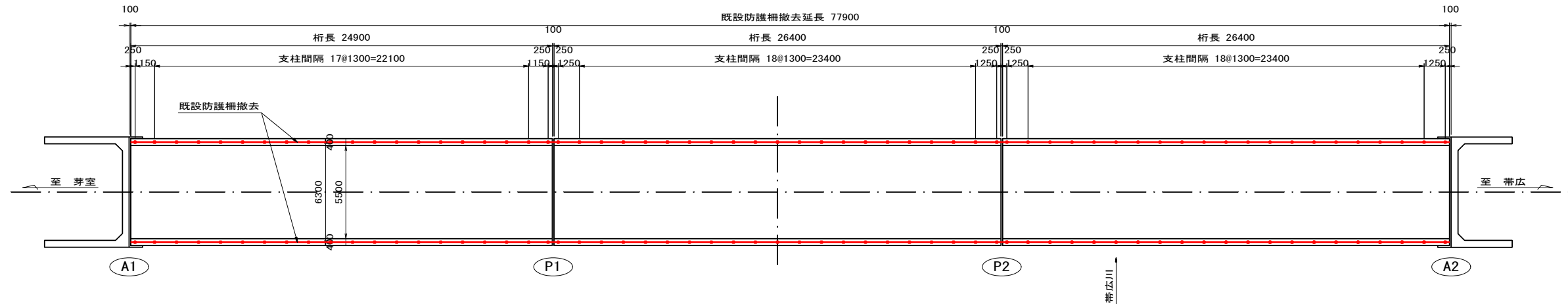
### 特記事項

- ・ 詳細の寸法値は施工時に再度確認すること。
- ・ 施工前には再度支承モルタルの損傷状況を確認すること。
- ・ 支承モルタル・沓座コンクリートの脆弱部は全て撤去・補修のこと。

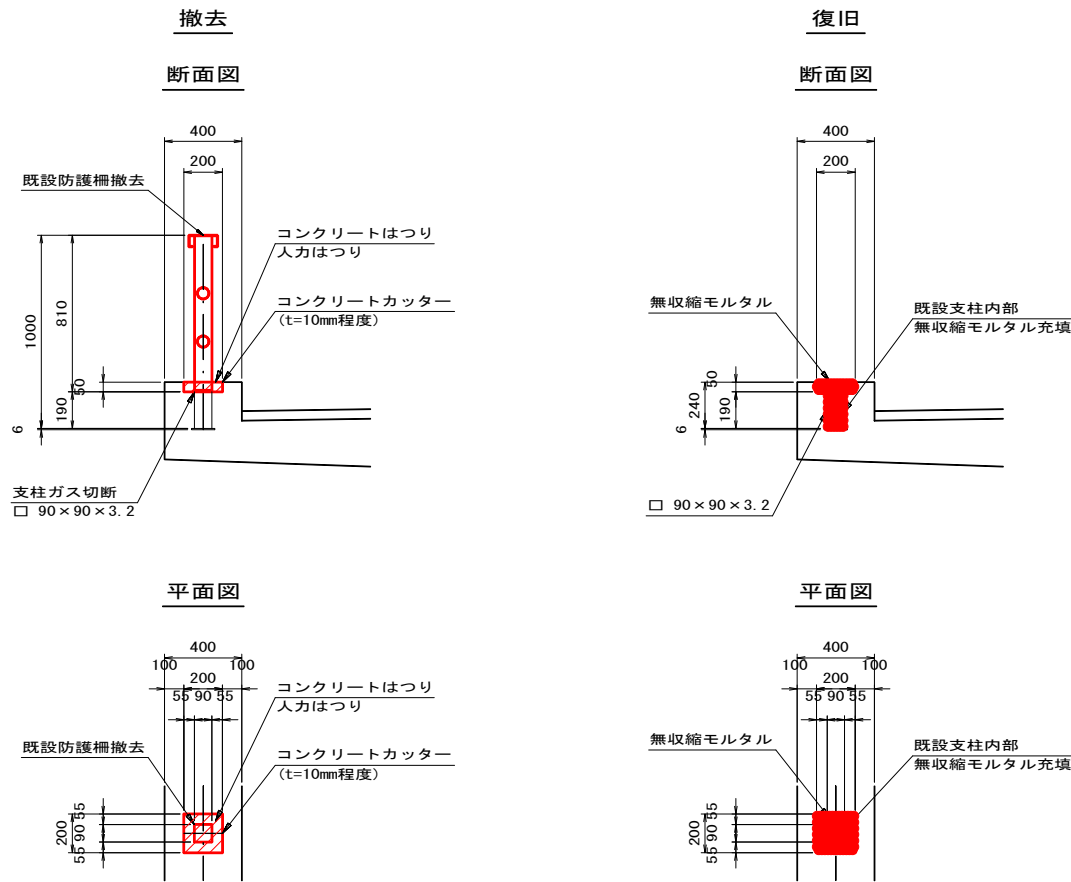
年度	令和 8 年度	
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事	
図面名	北伏古南7線橋 支承モルタル補修図(2)	
縮尺	図示	図面番号 10/19
作成年月日	令和 8 年 4 月	
	北海道 芽室 町	

# 北伏古南7線橋 防護柵補修図(1)

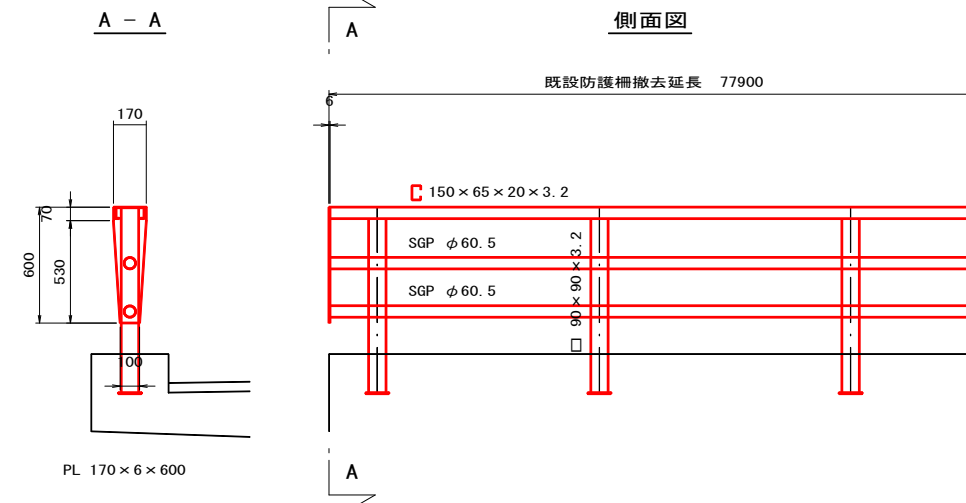
平面図 S=1:150



地覆補修詳細図 S=1:20  
既設支柱部(L側R側共通)  
N=124



既設防護柵概要図 S=1:20  
(L側R側共通)



注意事項

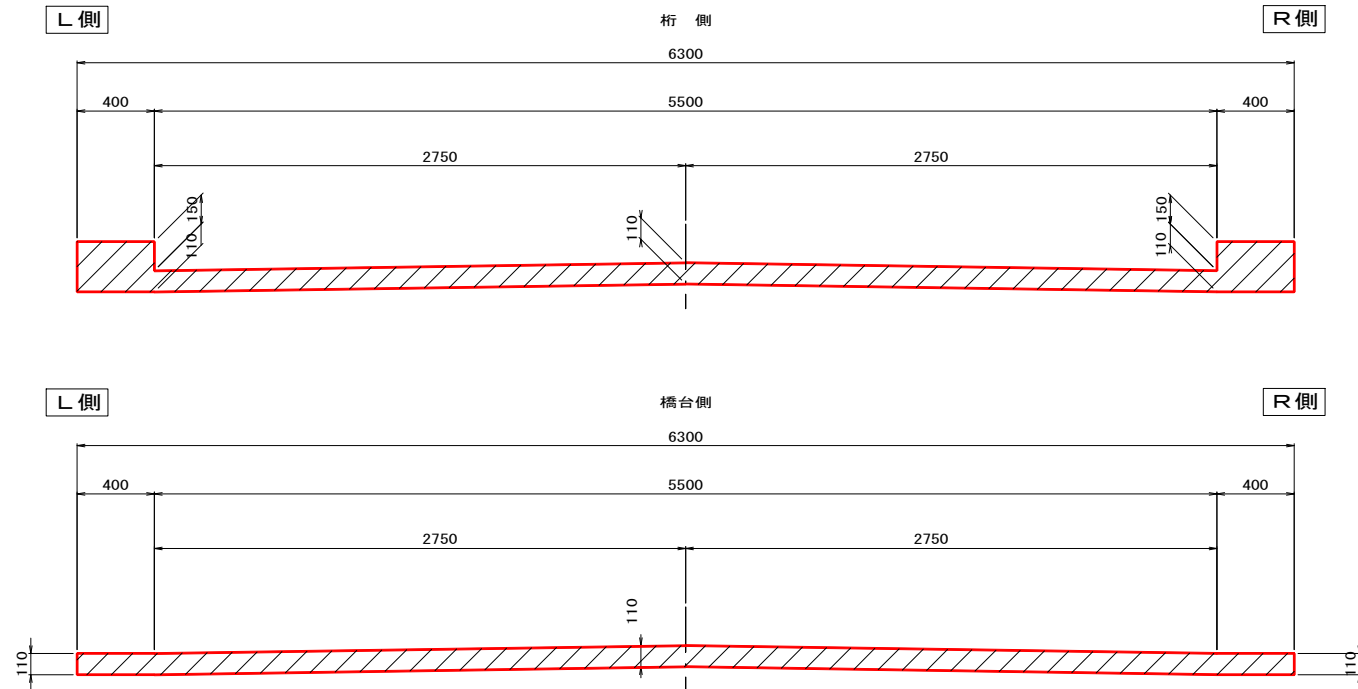
1. 図中寸法は既往資料(マイクロ図)および現地実測を基に作成した復元寸法である。施工にあたっては、現地計測のうえ再確認を行うこと。寸法が異なる場合は、監督員と協議のうえ必要に応じ寸法を変更すること。
2. 施工に際し疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議すること。

年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 防護柵補修図(1)		
縮尺	図示	図面番号	11/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			

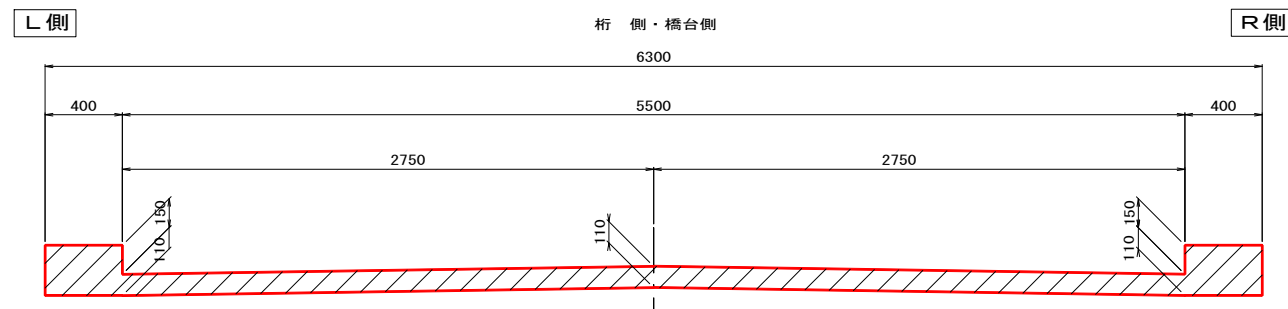


# 北伏古南7線橋 伸縮装置補修図(1)

取り壊し横断面図 S=1/20

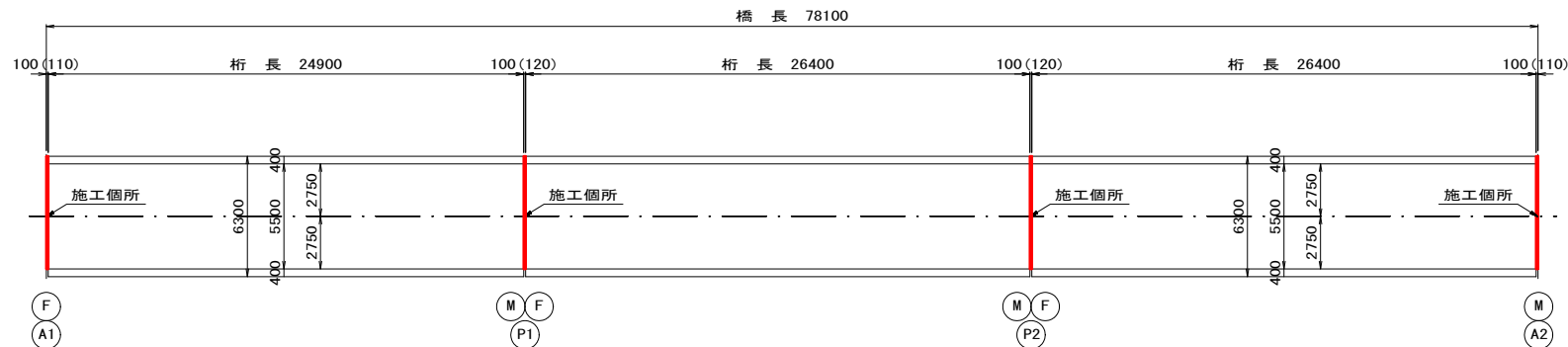


復旧横断面図 S=1/20



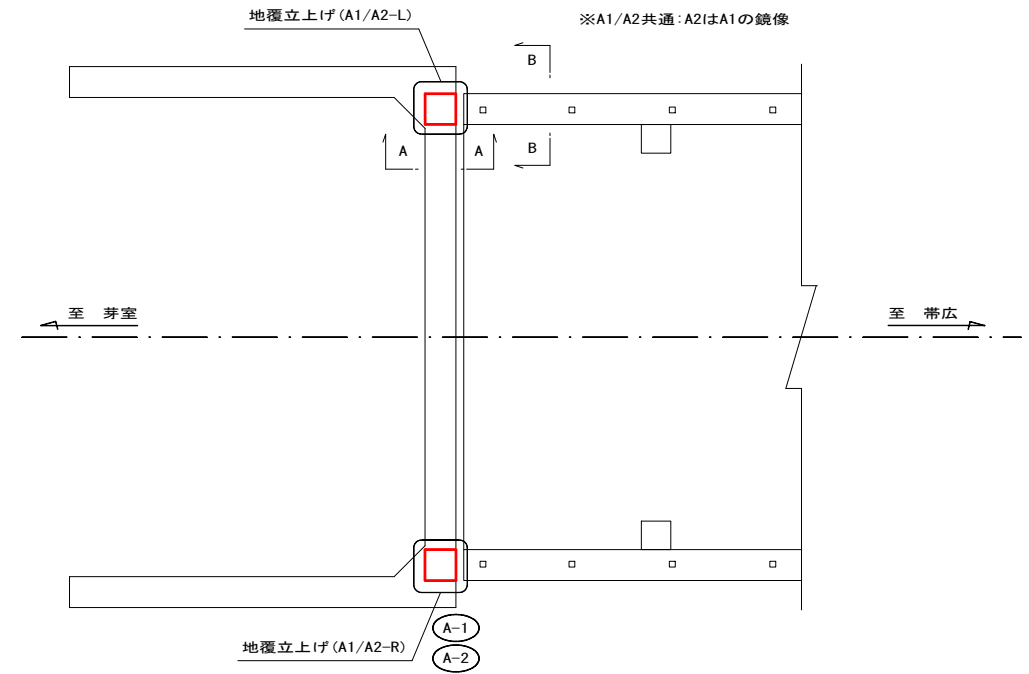
配置図 S=1/200

※( )内はWeb遊間実測値を示す。



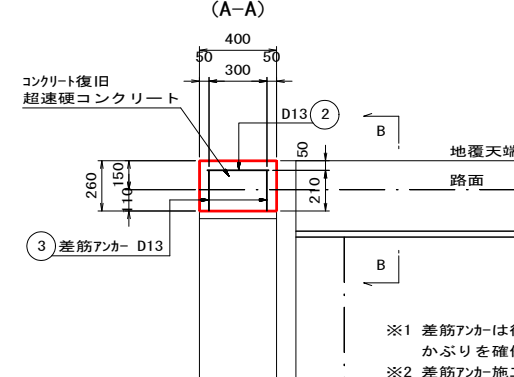
平面図 S=1:50

(橋台部地覆立上げ)

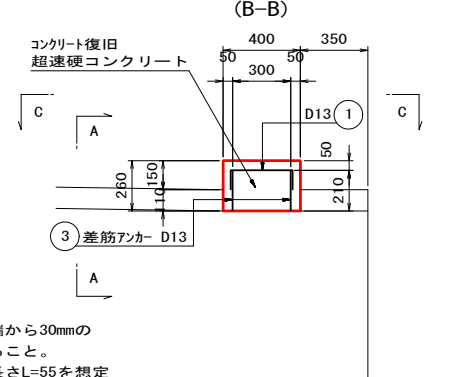


橋台地覆立上げ概要図 S=1:20  
A1/A2共通

橋台側面図 (A-A)



橋台正面図 (B-B)



橋台平面図 (C-C)

- ※1 差筋アンカーは復旧コンクリート部材の天端から30mmのかぶり確保するように長さを調整すること。
- ※2 差筋アンカー施工時の削孔は、径φ14.5、長さL=55を想定しているが使用する製品によって適宜調整のこと。
- ※3 差筋アンカーは既設鉄筋に干渉しない位置に設置する。
- ※4 差筋アンカーの設置位置によって地覆鉄筋の形状は適宜調整のこと。

地覆鉄筋材料表

適用	記号	断面	単尺	単重	1本当重量	員数	重量	備考
1	φ	D13	500	0.995	0.498	8	4.0	
2	φ	D13	320	0.995	0.318	8	2.5	
3	φ	D13	300	---	---	16	---	差筋アンカー
総重量							6.5kg	

※上記、地覆鉄筋は伸縮継手に含まない。現場手配とする。

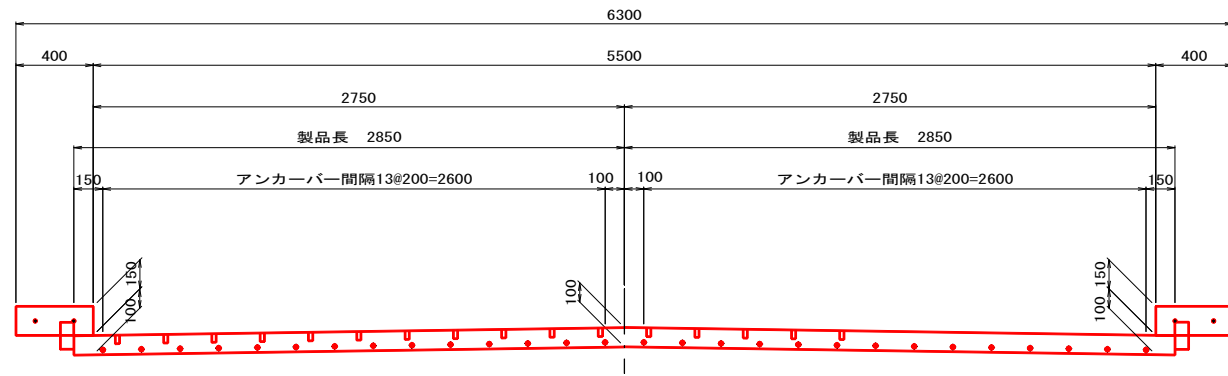
## 注意事項

1. 施工関連諸寸法は、現地実測により決定する事。
2. 既設伸縮装置撤去の際は、床版を取り壊さないようにする事。
3. 工事発注後は現橋を十分確認の上、数量等を精査の事。

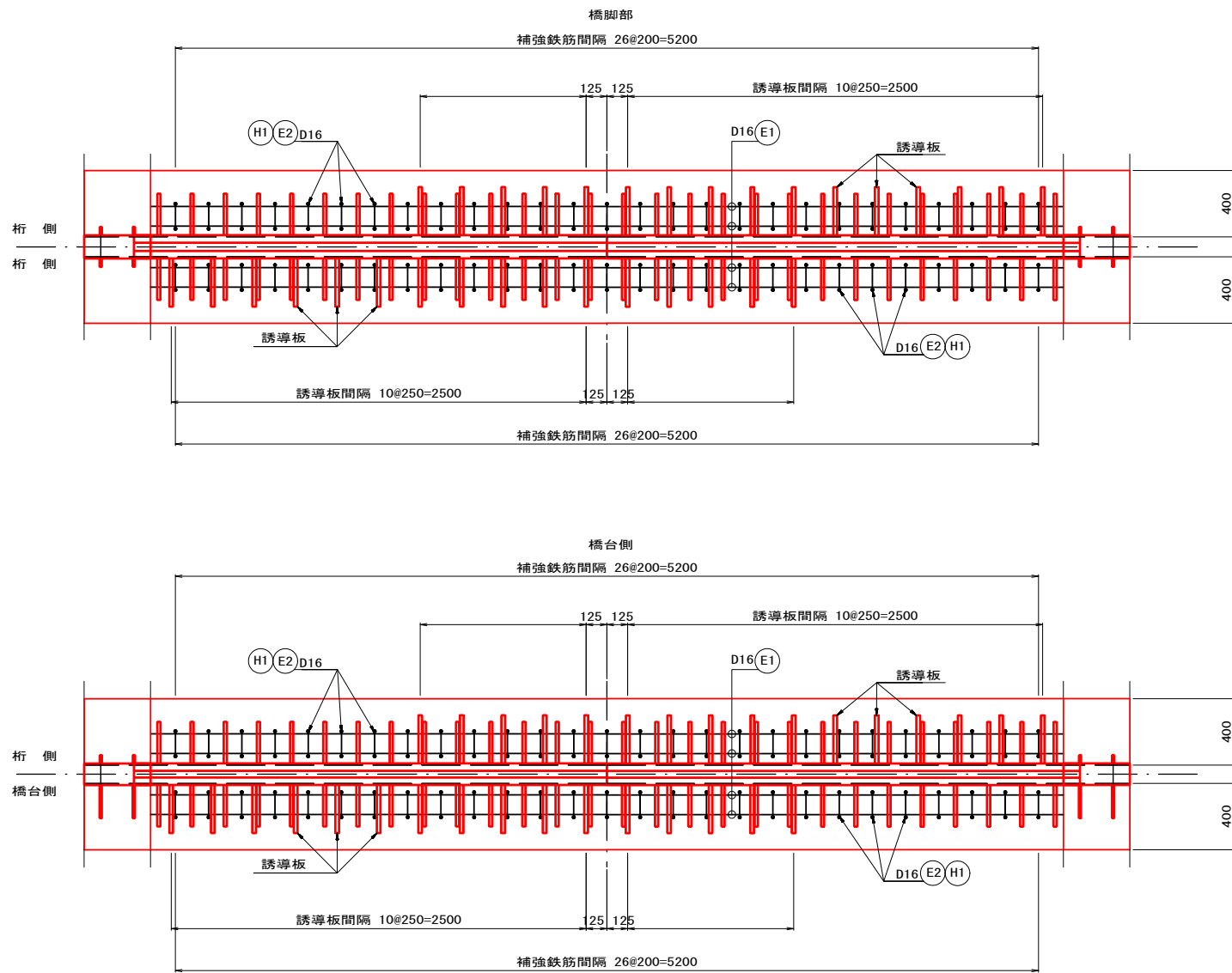
年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 伸縮装置補修図(1)		
縮尺	S=1:50	図面番号	13/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			

# 北伏古南7線橋 伸縮装置補修図(2)

横断面図 S=1/20

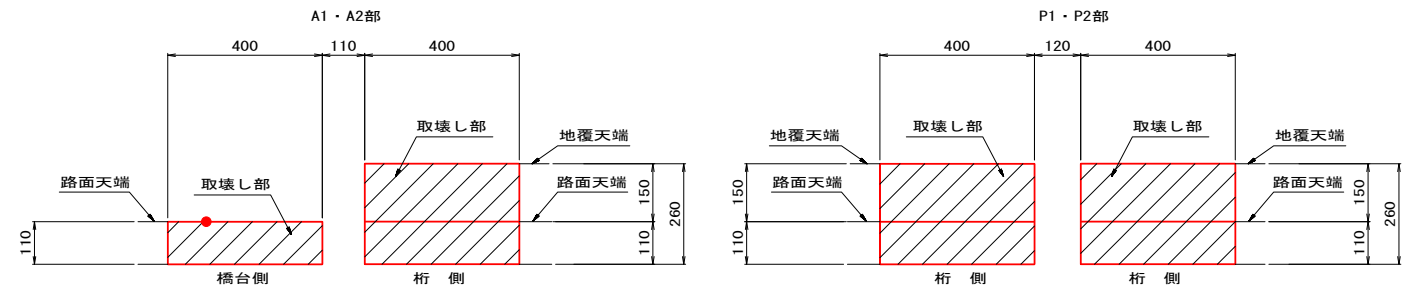


平面図 S=1/30



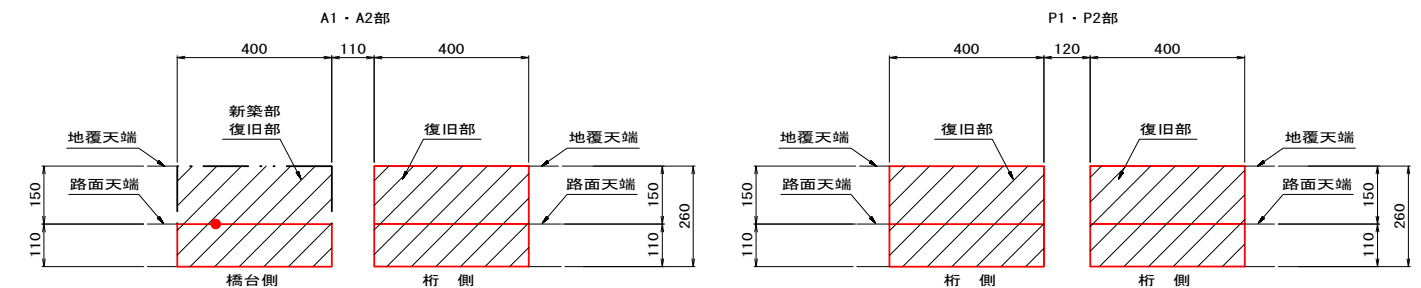
床版切欠き図 S=1/10

※詳細寸法等は現地検測後決定とする。



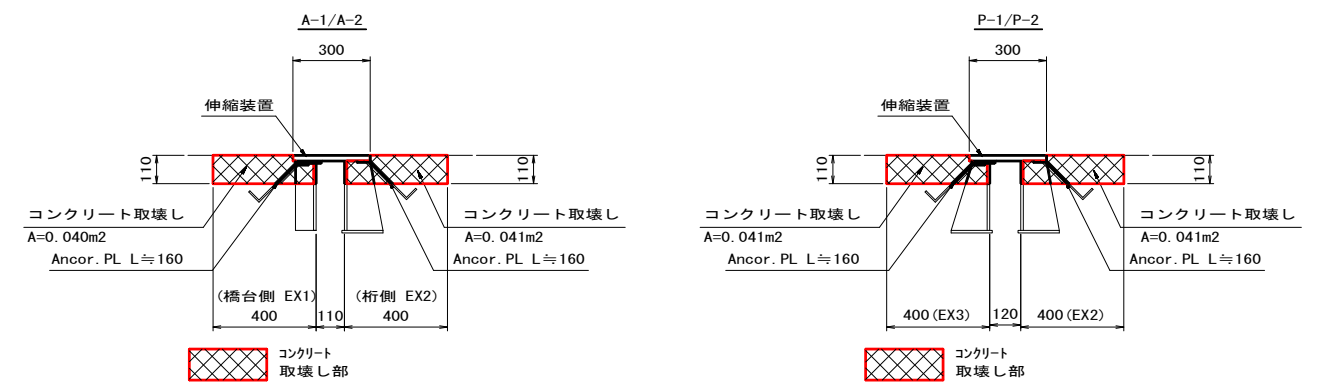
復旧図 S=1/10

※詳細寸法等は現地検測後決定とする。



※橋台地覆部の復旧の詳細は別図～橋面補修図を参照。

伸縮装置取壊し概要図 S=1:15



年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 伸縮装置補修図(2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	14/19
作成年月日	令和8年4月		
	北海道芽室町		

**注意事項**

1. 施工関連諸寸法は、現地実測により決定する事。
2. 既設伸縮装置撤去の際は、床版を取り壊さないようにする事。
3. 工事発注後は現橋を十分確認の上、数量等を精査の事。

# 北伏古南7線橋 伸縮装置補修図(3)

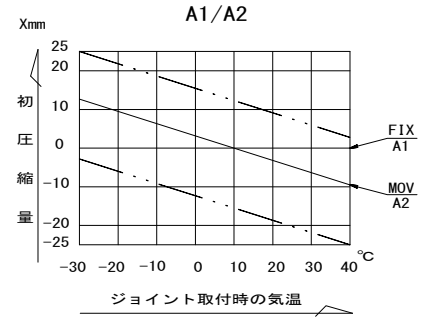
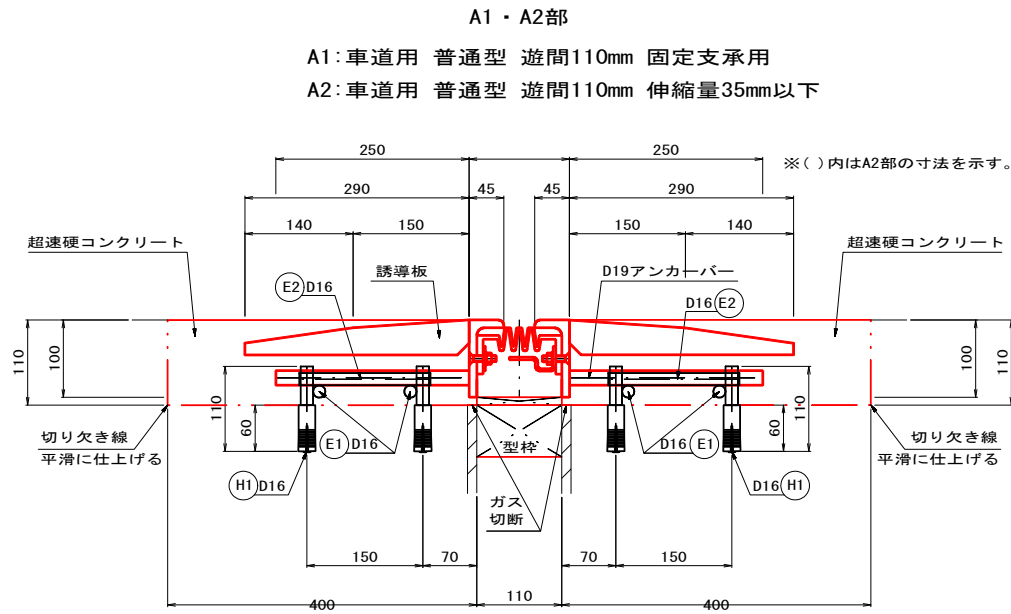
## 取付断面図

S=1/5

## 初圧縮量表

## 伸縮装置の現場接続方法について

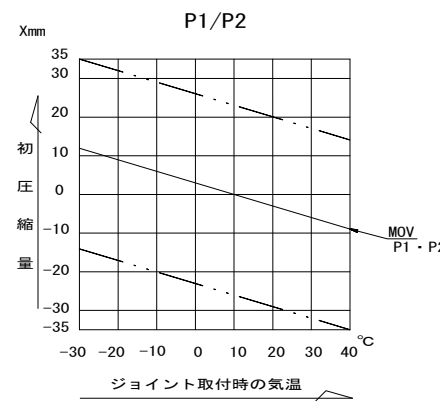
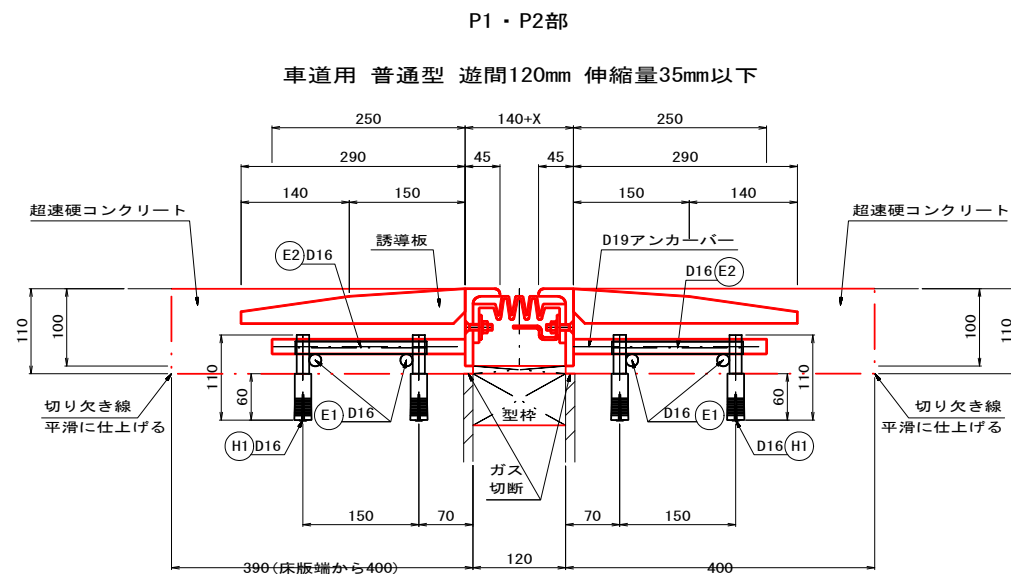
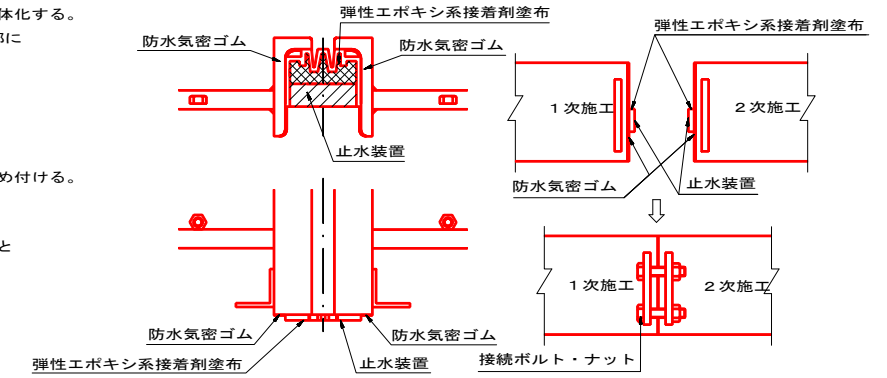
## 伸縮装置継手部



※伸縮装置納入時は車道センターライン（橋梁中心）より一体化する。  
（接続部の両側には止水装置が止水ゴム（伸縮ゴム）の下部に取付けられている。また、地覆側の伸縮装置端部には立上止水装置が取付けられていることに留意すること。）

1. 止水装置の全面、および立上止水装置の側外側に弾性エポキシ系接着剤を塗布する。
2. 接続ボルトを双方の止水装置が圧着するまで左右均等に締め付ける。
3. 地覆伸縮装置を弾性エポキシ系接着剤を塗布した端部立上止水装置の上から、挟み込む様に取付け、地覆部と本体伸縮装置の接触面を点溶接した後、点溶接側の隙間部分にエポキシ系接着剤を塗布する。

※詳細は、製品付属の「施工要領書」を参照の事。



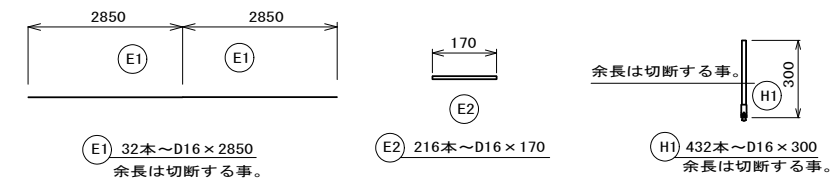
## 工事仕様

1. H1鉄筋は橋台・床版切欠き後に打込むこと。
2. 鉄筋の余長は切断すること。
3. 補強鉄筋の接合部は全て現場溶接とする。
4. 補強鉄筋は全て現場手配とする。
5. 既設伸縮装置撤去の際はガス切断すること。
6. 地覆の重なり部はシーリングすること。
7. Xの値は初圧縮量表を参照する事。

## 注意事項

1. 施工関連諸寸法は、現地実測により決定する事。
2. 既設伸縮装置撤去の際は、床版を取り壊さないようにする事。
3. 工事発注後は現橋を十分確認の上、数量等を精査の事。

## 補強鉄筋加工図



## 補強鉄筋材料表

適用	記号	断面	単尺	単重	1本当重量	員数	重量	備考
	E1	φ D16	2850	1.560	4.446	32	142.3	
	E2	φ D16	170	1.560	0.265	216	57.2	
	H1	φ D16	300	---	---	432	---	差筋アンカー
総重量							---	199.5kg

※上記、補強鉄筋は伸縮継手に含まない。現場手配とする。

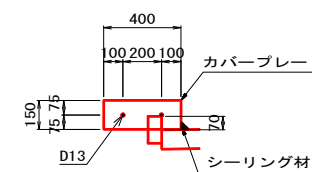
## 伸縮装置材料表

型式	単尺	本数	長さ	適用
車道用 普通型 遊間110mm 固定支承用	2850	2	5700	A1車道部
地覆用 普通型 遊間110mm 固定支承用	400	2	800	A1地覆部
合計				6m500
車道用 普通型 遊間110mm 伸縮量35mm以下	2850	2	5700	A2車道部
地覆用 普通型 遊間110mm 伸縮量35mm以下	400	2	800	A2地覆部
合計				6m500
車道用 普通型 遊間120mm 伸縮量35mm以下	2850	4	11400	P1・P2車道部
地覆用 普通型 遊間120mm 伸縮量35mm以下	400	4	1600	P1・P2地覆部
合計				13m000
誘導板	290×45×22t		128枚	
シーリング材	200ml×6ヶ所		1600ml	320ml/本 5本使用

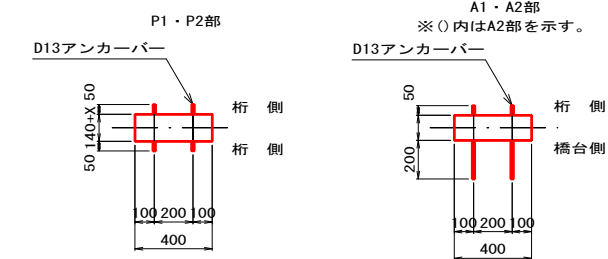
## 地覆部詳細図

S=1/20

### <断面図>



### <平面図>



年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 伸縮装置補修図(3)		
縮尺	S=1:50	図面番号	15/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			

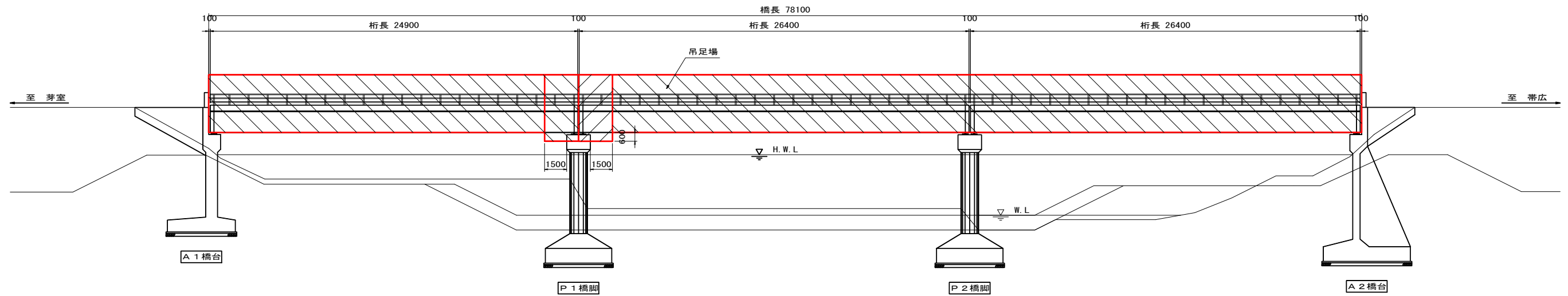
# 北伏古南7線橋 仮設工図(1)

(参考図)

防護柵取替施工時

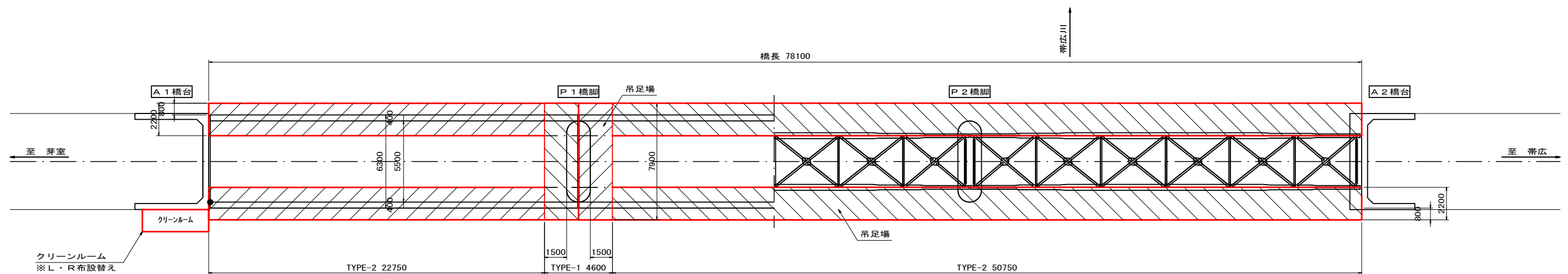
側面図

S=1:150



平面図

S=1:150



特記事項

1. 本図は既設の現存資料をもとに復元したものであるため、工事着手前に現地寸法を確認すること。
2. 既設の構造や現況地盤線が本図と異なる場合、監督員と協議を行い指示を受けること。

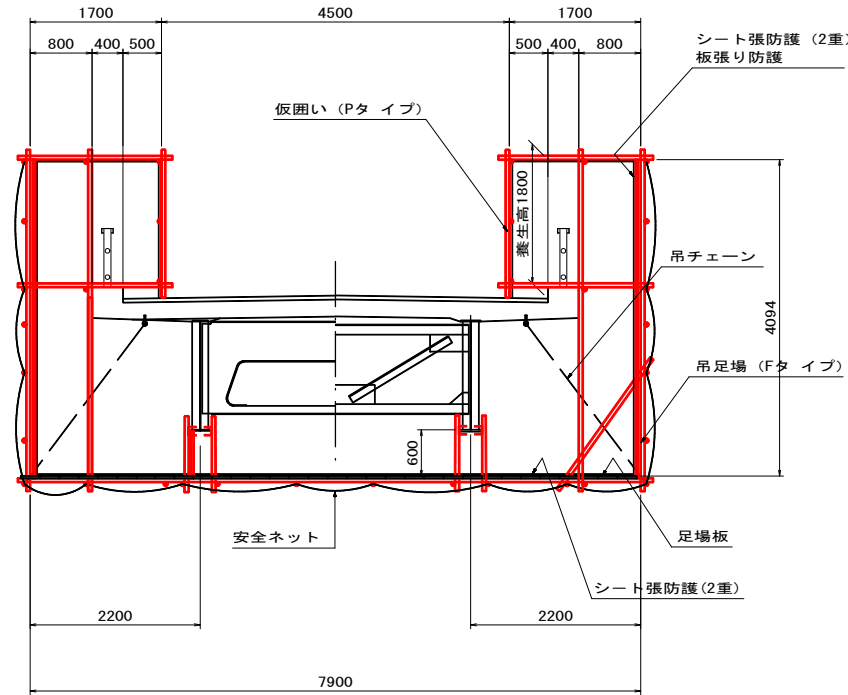
年度	令和 8 年 度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 仮設工図(1)		
縮尺	図示	図面番号	16/19
作成年月日	令和 8 年 4 月		
北海道 芽室 町			

# 北伏古南7線橋 仮設工図(2)

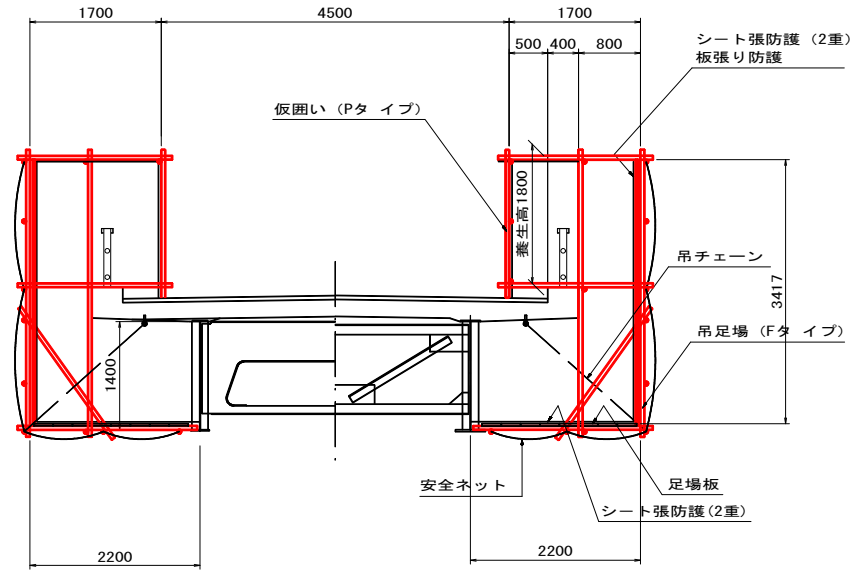
(参考図)

## 防護柵取替施工時

断面図 S=1:50  
(TYPE-1: 防護柵・P1橋脚支承部施工時)

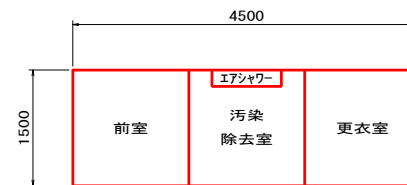


断面図 S=1:50  
(TYPE-2: 防護柵施工時)



※1: 取付金具(コンクリートアンカー・ナット)は参考の表記であり、施工前に再度設計計算を行い、必要な規格・本数を設定すること。  
⇒78.100/1.800=43.4⇒44分割より45×2列=90本施工  
※2: コンクリートアンカー施工前には鉄筋探査を行い、内部鋼材との干渉を避けること。

### クリーンルーム概要図



### 【 防護柵切断時の仮設について 】

- ・ダストを飛散させない構造とする事から、完全密閉の仮設構造物とすること。
- ・吊足場は全面を板張り防護とし隙間の無いようにすること。
- ・作業場所は全面防護となるため、照明設備を用意し必要な明るさを確保すること。
- ・塵の処理は必要に応じて送風機・集塵機を配置し、その都度清掃すること。
- ・現塗膜は有害物質を含有しているため周辺地域への飛散・流出がないよう安全管理に配慮すること。
- ・作業員への安全衛生と指導には十分配慮をすること。
- ・事前に行なった塗膜調査の結果、防護柵にPCB・鉛を含むとされているため、各予防規則に基づき必要な「作業主任者」を配置すること。
- ・撤去した防護柵は処理が可能な処理場での受付サイズを確認のうえで切断処理～運搬すること。
- ・廃塗膜については廃棄物処理法に基づいた溶出試験を実施し、処分方法を決定すること。
- ・クリーンルーム設置の際には必要に応じて法面に傾斜地足場等を設ける。
- ・その他「労働安全衛生法」等の関係法令を順守し、適切な必要処置を講ずること。

### 特記事項

1. 本図は既設の現存資料をもとに復元したものであるため、工事着手前に現地寸法を確認すること。
2. 既設の構造や現況地盤線が本図と異なる場合、監督員と協議を行い指示を受けること。

年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 仮設工図(2)		
縮尺	図示	図面番号	17/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			

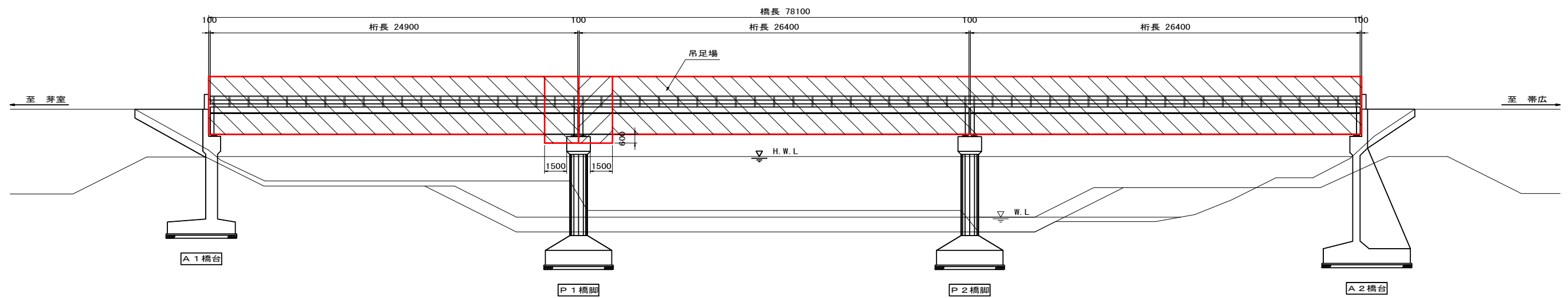
# 北伏古南7線橋 仮設工図(3)

(参考図)

橋面防水・床版排水パイプ・支承施工時

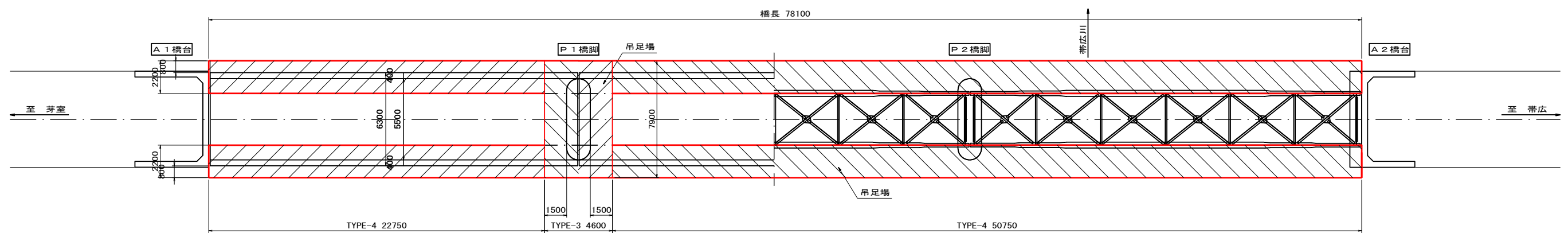
側面図

S=1:150



平面図

S=1:150



特記事項

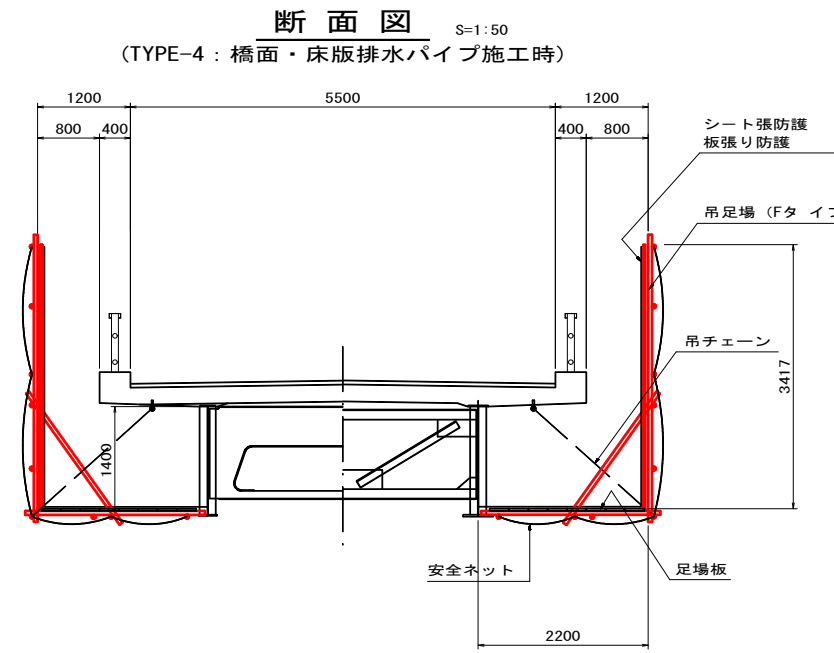
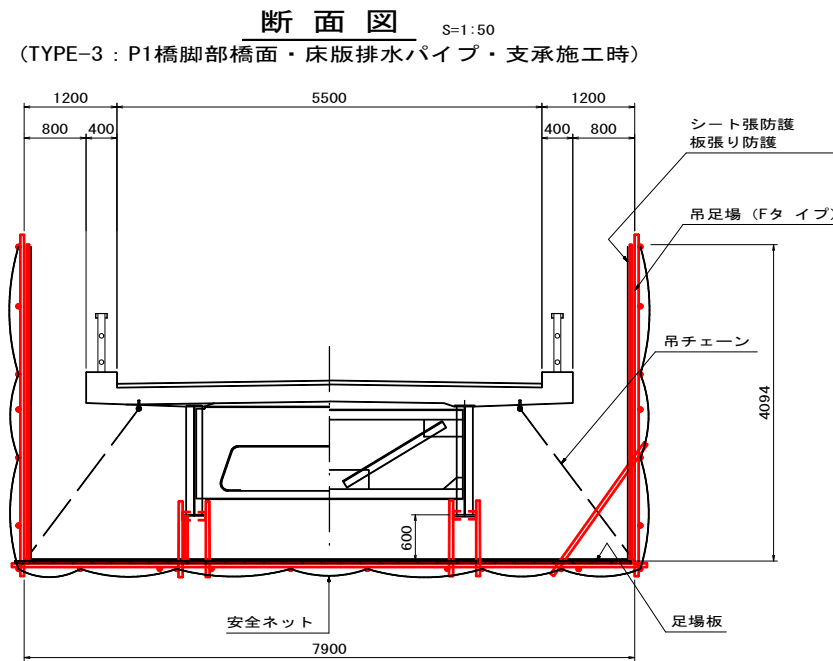
1. 本図は既設の現存資料をもとに復元したものであるため、工事着手前に現地寸法を確認すること。
2. 既設の構造や現況地盤線が本図と異なる場合、監督員と協議を行い指示を受けること。

年度	令和 8 年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 仮設工図(3)		
縮尺	図示	図面番号	18/19
作成年月日	令和 8 年 4 月		
北海道 芽室町			

# 北伏古南7線橋 仮設工図(4)

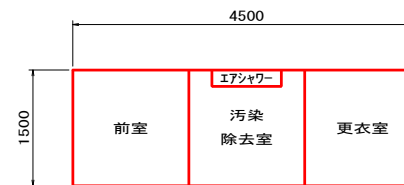
(参考図)

橋面防水・床版排水パイプ・支承施工時



※1 : 取付金具 (コンクリートアンカー・7イボルト~M16) は参考の表記であり、施工前に再度設計計算を行い、必要な規格・本数を設定すること。  
 ⇒ 78.100/1.800=43.4⇒44分割より45×2列=90本施工  
 ※2 : コンクリートアンカー施工前には鉄筋探査を行い、内部鋼材との干渉を避けること。

## クリーンルーム概要図



### 【 防護柵切断時の仮設について 】

- ・ダストを飛散させない構造とする事から、完全密閉の仮設構造物とすること。
- ・吊足場は全面を板張り防護とし隙間の無いようにすること。
- ・作業場所は全面防護となるため、照明設備を用意し必要な明るさを確保すること。
- ・塵の処理は必要に応じて送風機・集塵機を配置し、その都度清掃すること。
- ・現塗膜は有害物質を含有しているため周辺地域への飛散・流出がないよう安全管理に配慮する。
- ・作業員への安全衛生と指導には十分配慮すること。
- ・事前に行なった塗膜調査の結果、防護柵にPCB・鉛を含むとされているため、各予防規則に基づき必要な「作業主任者」を配置すること。
- ・撤去した防護柵は処理が可能な処理場での受付サイズを確認のうえで切断処理～運搬すること。
- ・廃塗膜については廃棄物処理法に基づいた溶出試験を実施し、処分方法を決定すること。
- ・クリーンルーム設置の際には必要に応じて法面に傾斜地足場等を設ける。
- ・その他「労働安全衛生法」等の関係法令を順守し、適切な必要処置を講じること。

### 特記事項

1. 本図は既設の現存資料をもとに復元したものであるため、工事着手前に現地寸法を確認すること。
2. 既設の構造や現況地盤線が本図と異なる場合、監督員と協議を行い指示を受けること。

年度	令和8年度		
工事名	北伏古南7線橋長寿命化工事		
図面名	北伏古南7線橋 仮設工図(4)		
縮尺	図示	図面番号	19/19
作成年月日	令和8年4月		
北海道芽室町			